

志賀原子力発電所適合性審査資料

SK2-地074-02

2023年5月18日

志賀原子力発電所2号炉 地下構造評価について

データ集

2023年5月18日
北陸電力株式会社

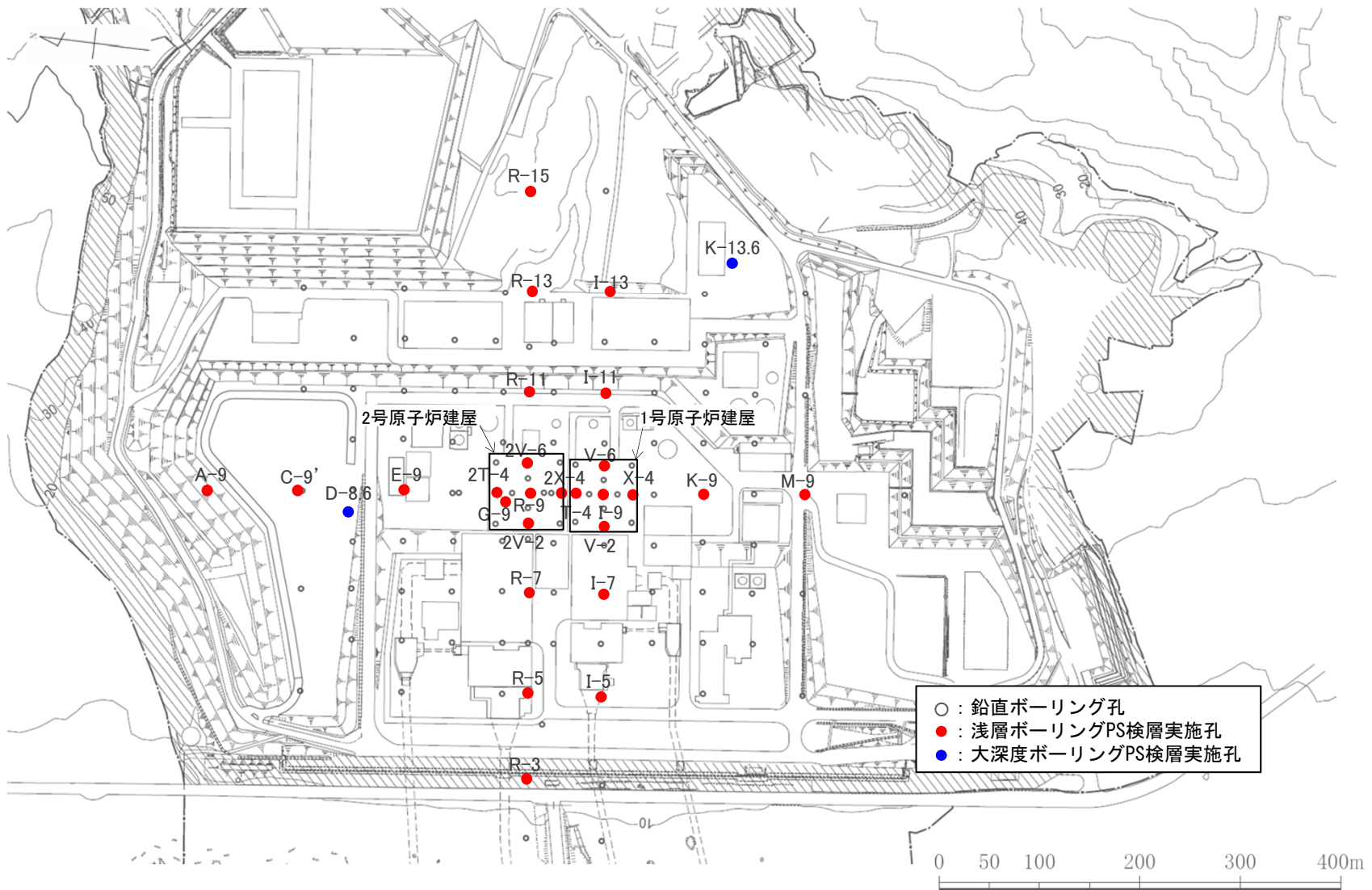
余白

目 次

1. 敷地地盤の調査結果	4
1.1 浅層ボーリング孔を用いた調査結果	6
1.2 大深度ボーリング孔(K-13.6孔)を用いた調査結果	18
1.3 大深度ボーリング孔(D-8.6孔)を用いた調査結果	125
2. 観測記録による地下構造の検討に用いた地震観測記録	137
2.1 水平アレー地震観測記録	138
2.2 応答スペクトル比(自由地盤EL-200m/2号原子炉建屋直下EL-200m)の検討に用いた地震観測記録	195
2.3 応答スペクトル比(自由地盤EL-10m/自由地盤EL-200m)の検討に用いた地震観測記録	245

1. 敷地地盤の調査結果

原子炉設置位置付近のPS検層実施孔位置図

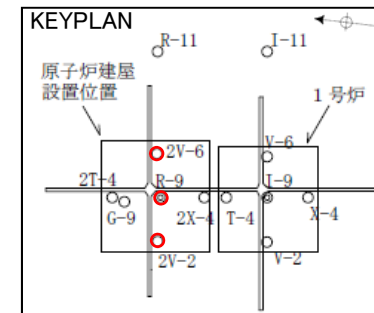
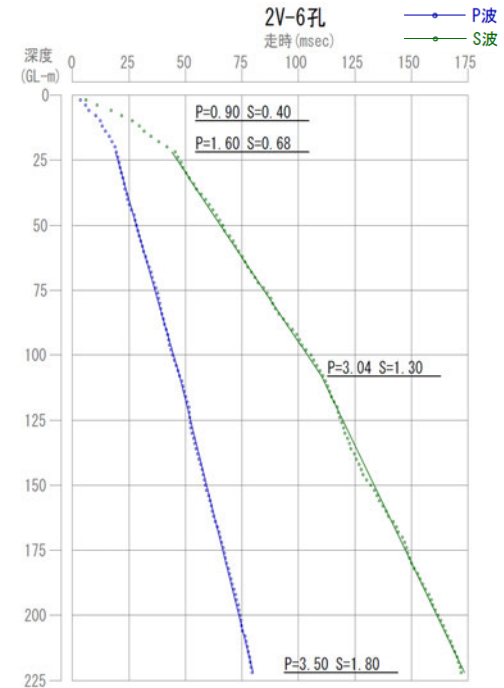
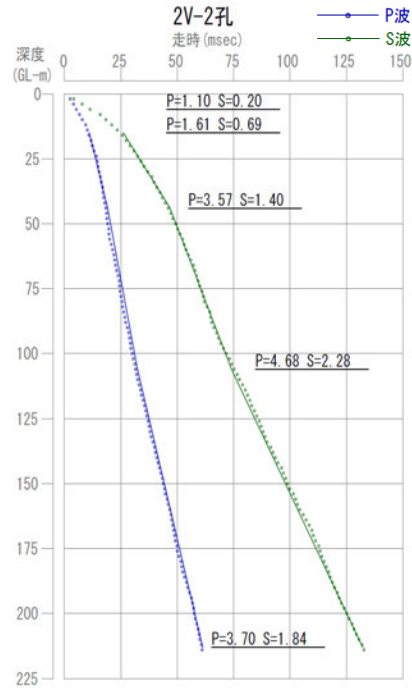
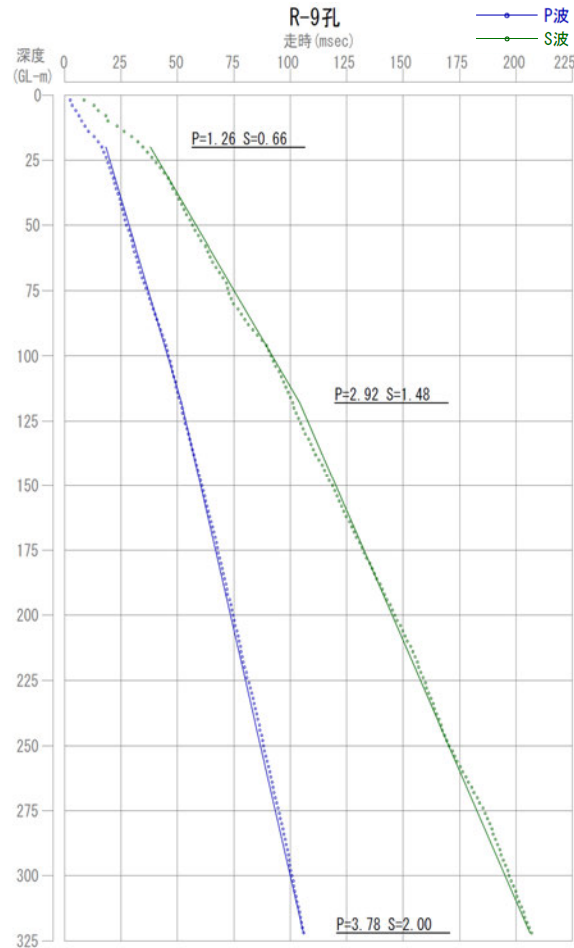


原子炉設置位置付近のPS検層実施孔位置図

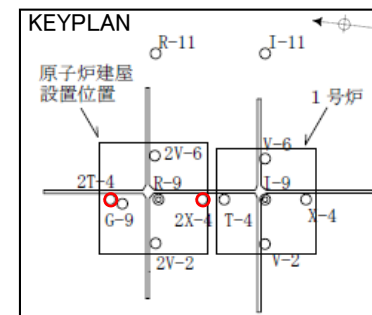
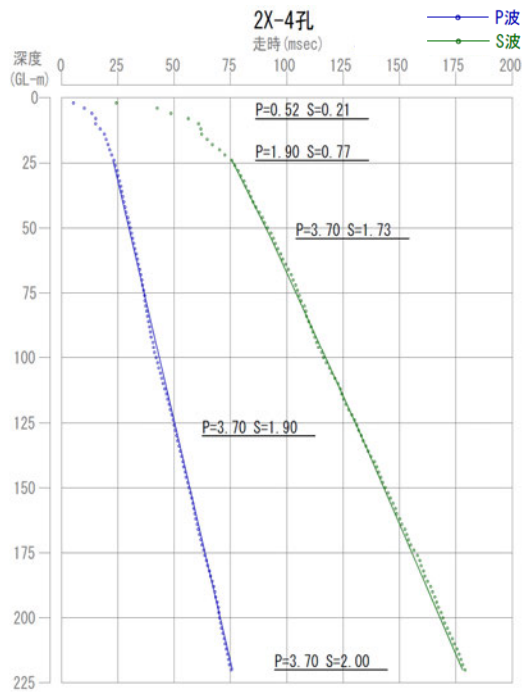
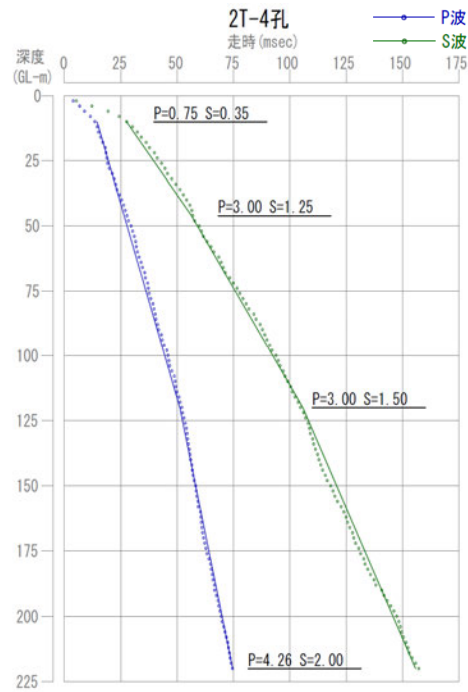
1.1 浅層ボーリング孔を用いた調査結果

PS検層等の走時曲線

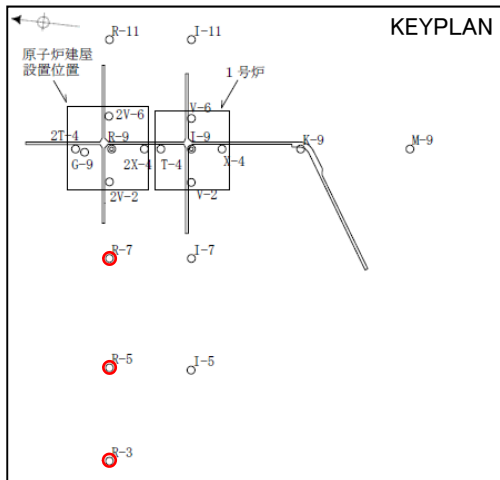
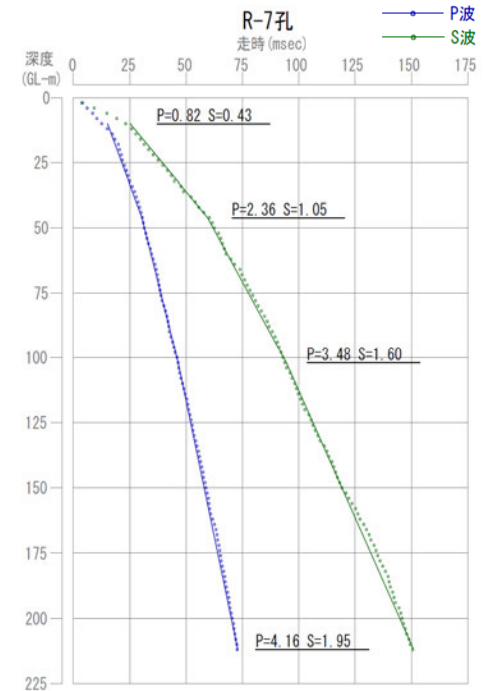
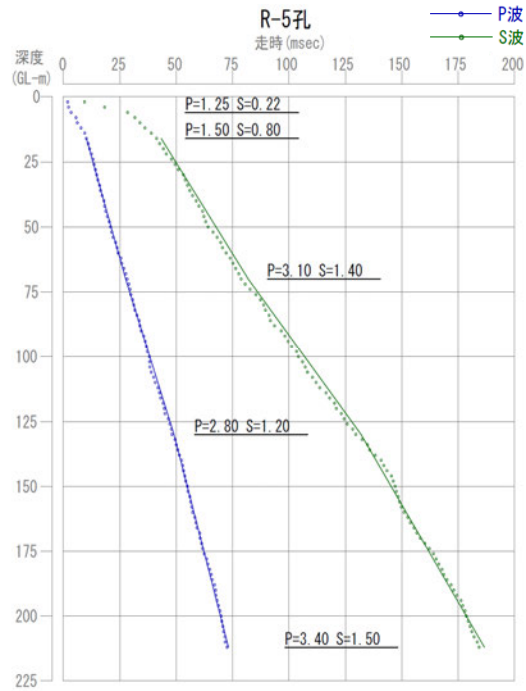
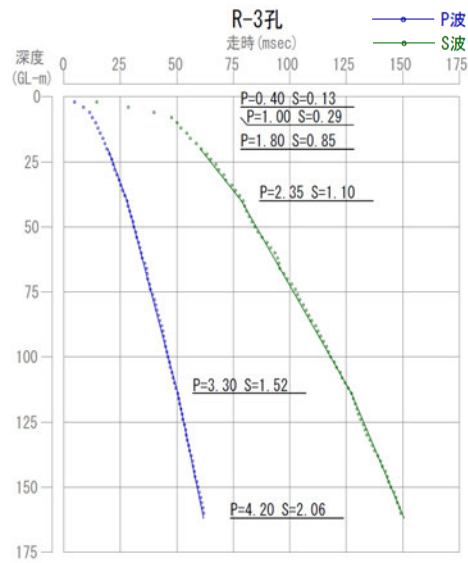
■ 走時曲線(1/11)



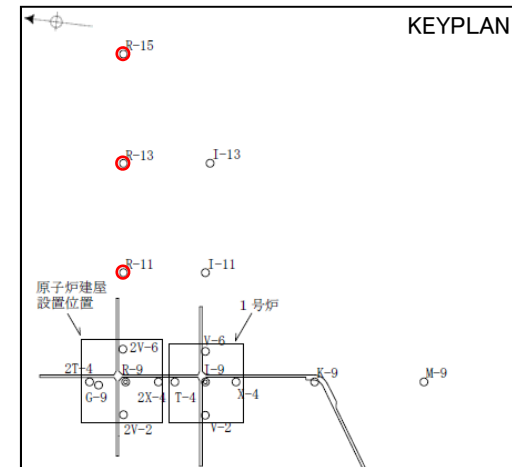
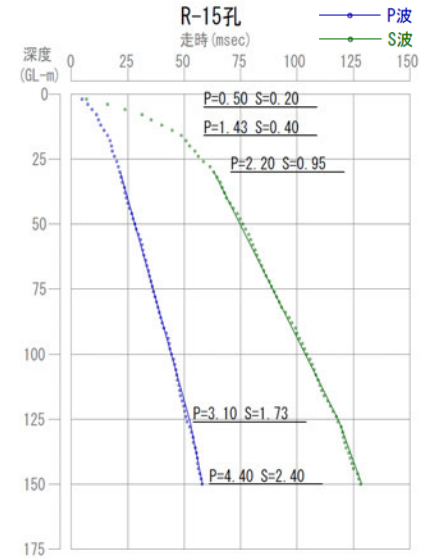
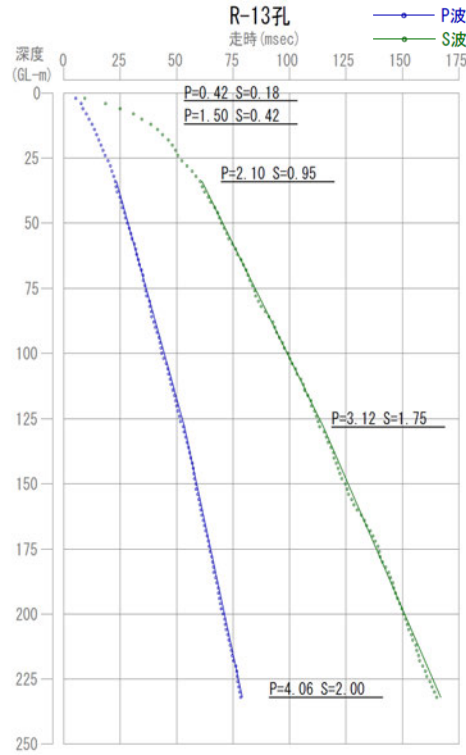
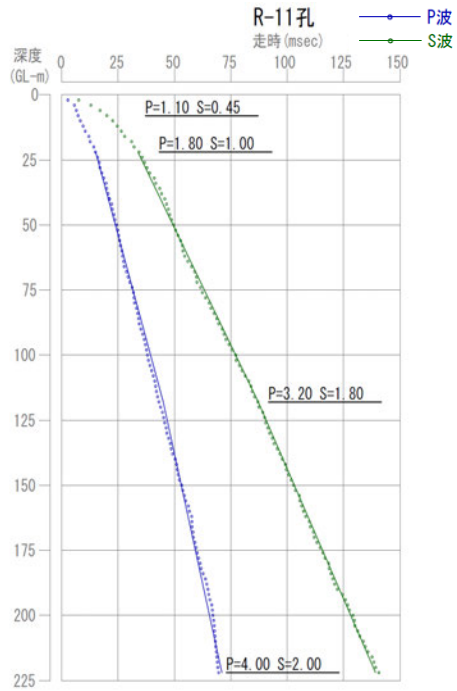
■ 走時曲線(2/11)



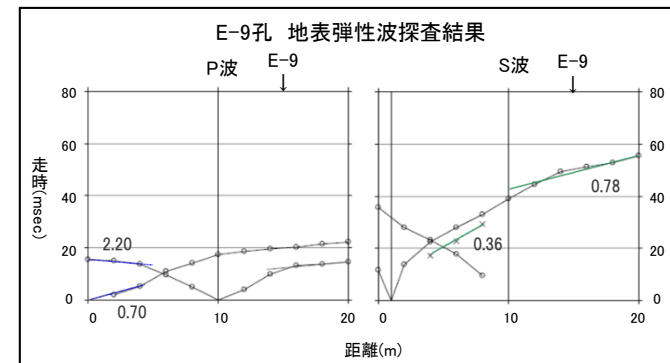
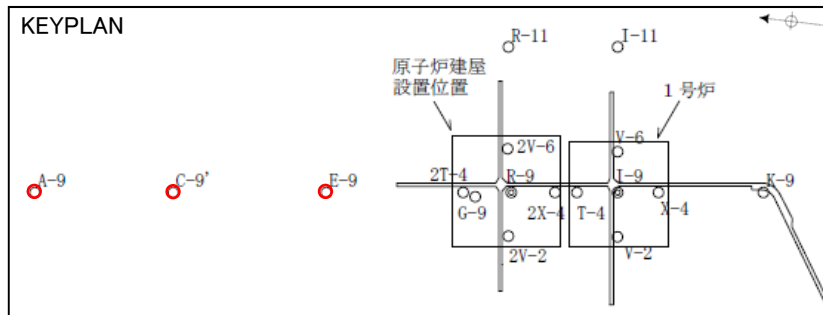
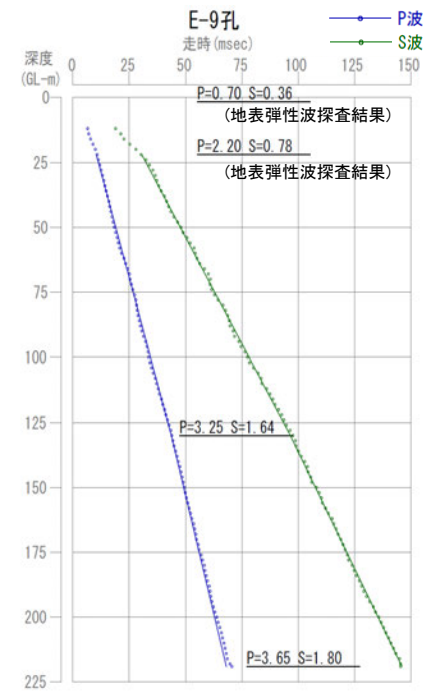
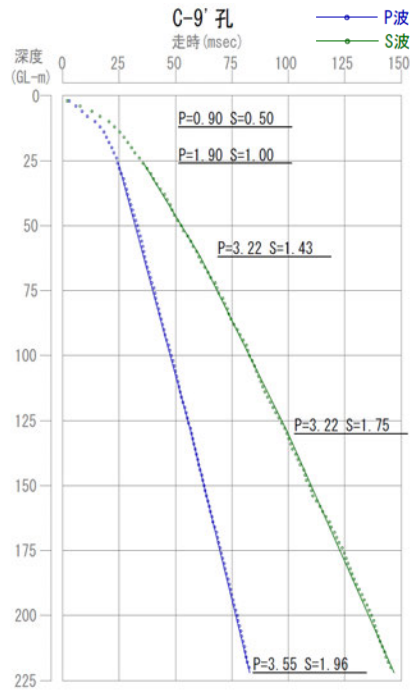
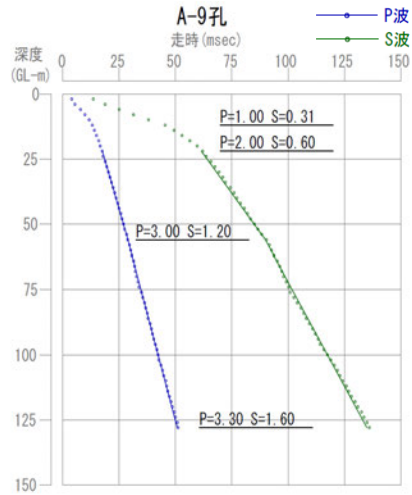
■ 走時曲線(3/11)



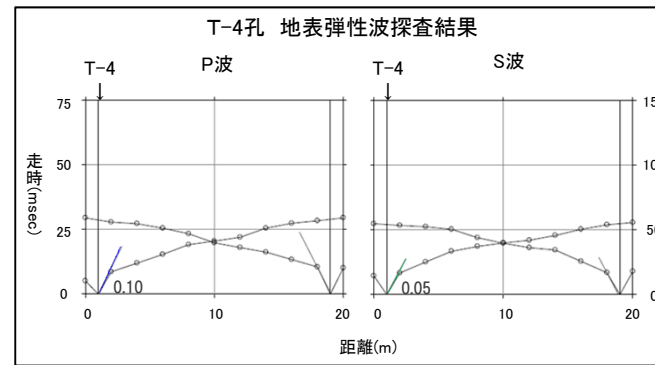
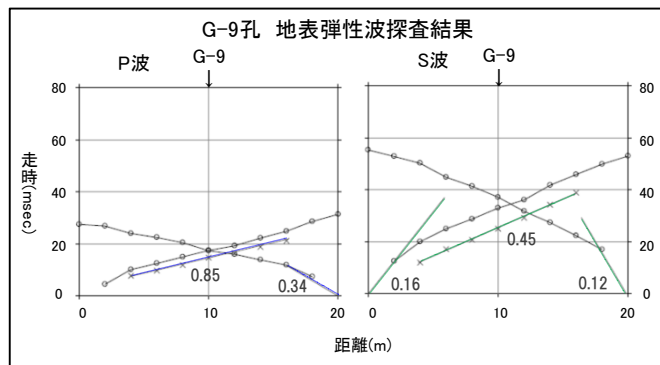
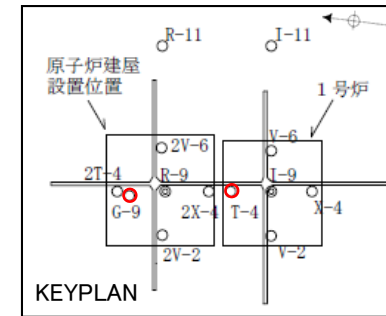
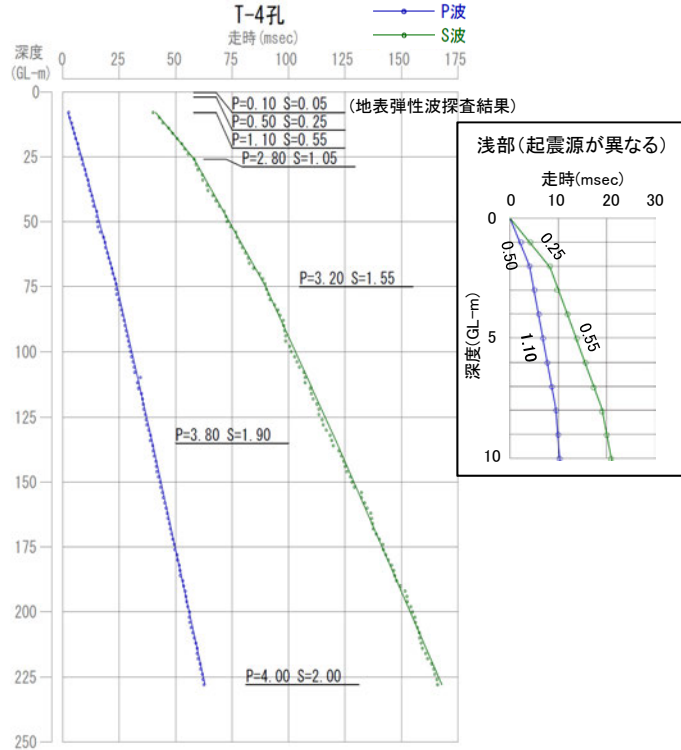
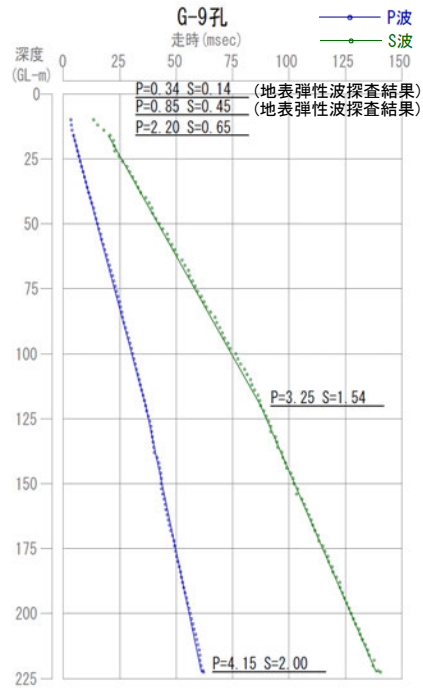
■ 走時曲線(4/11)



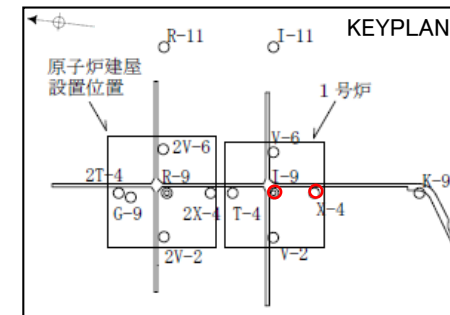
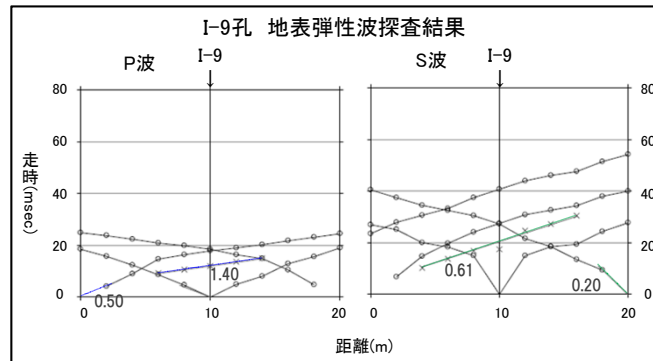
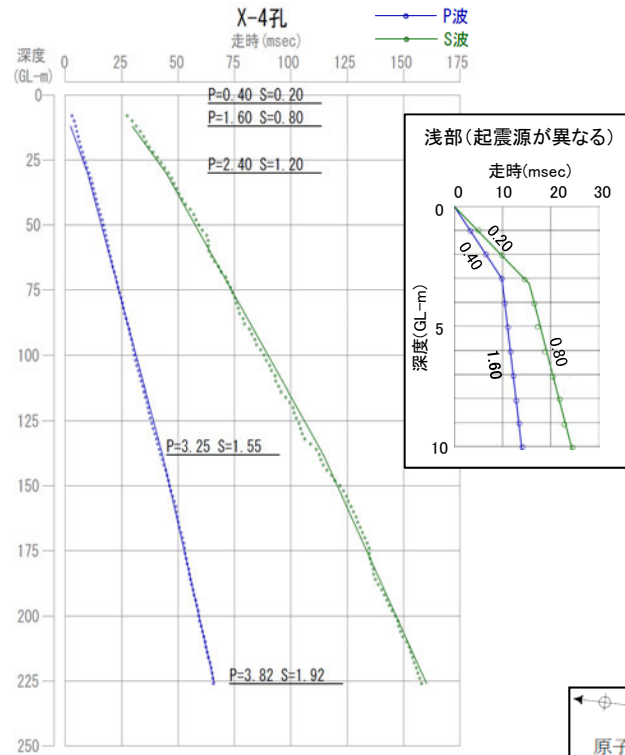
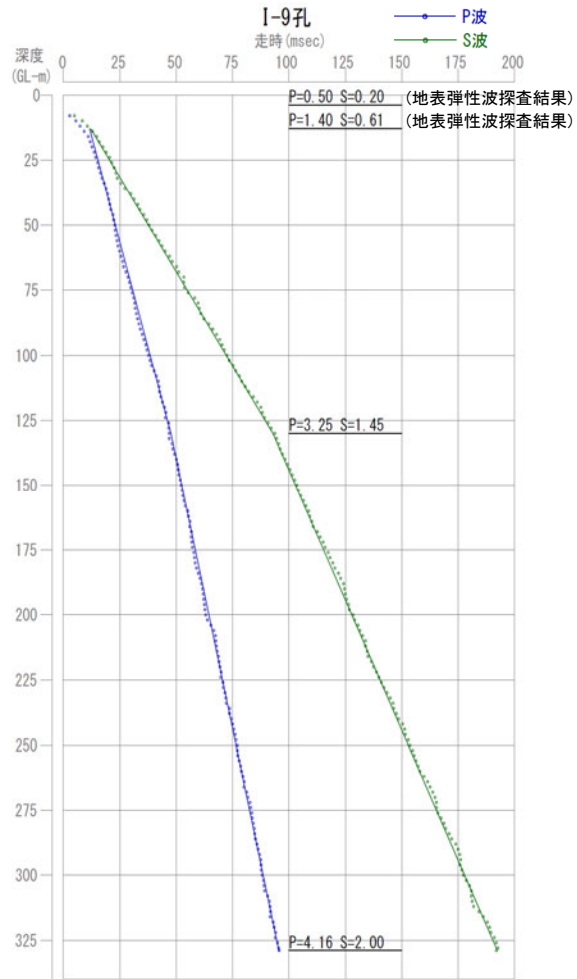
■ 走時曲線(5/11)



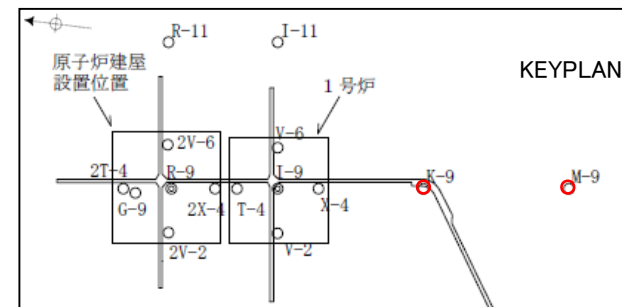
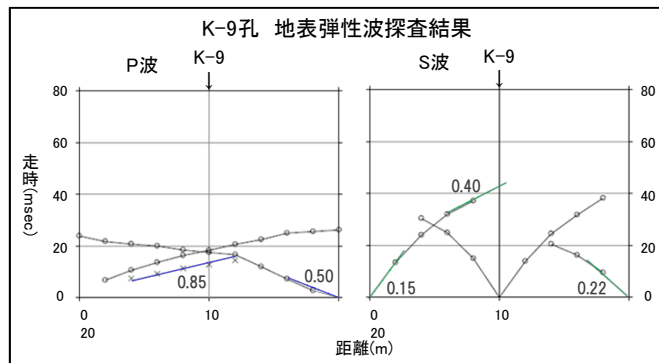
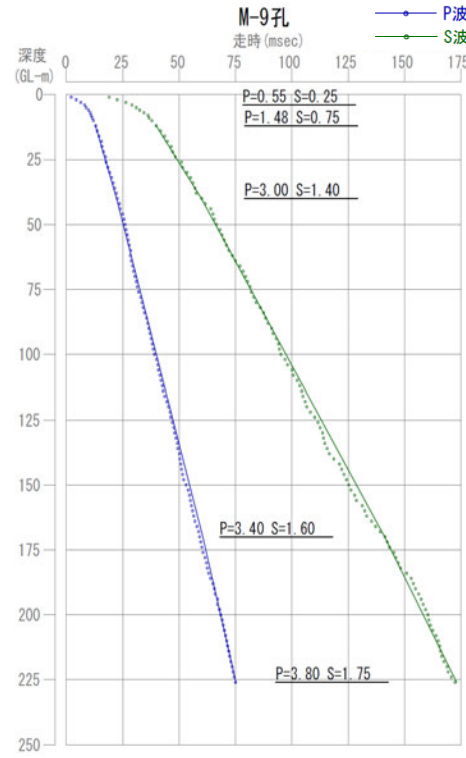
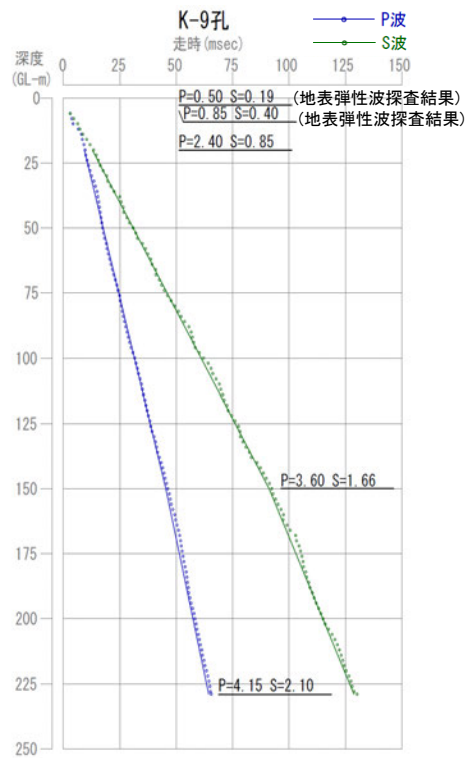
■ 走時曲線(6/11)



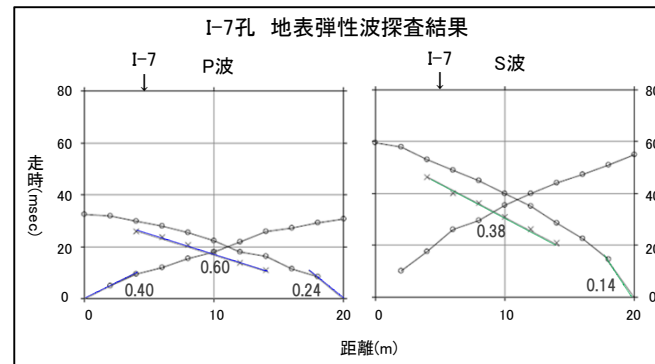
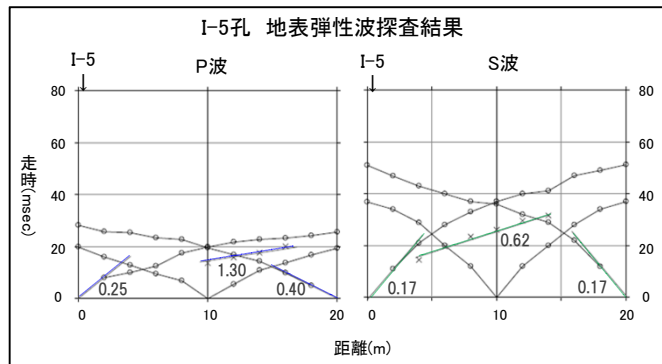
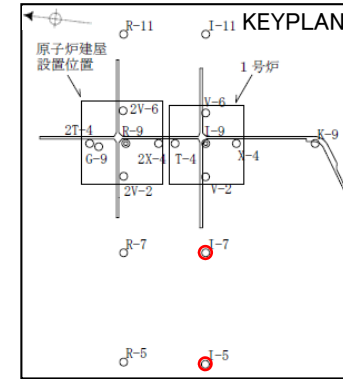
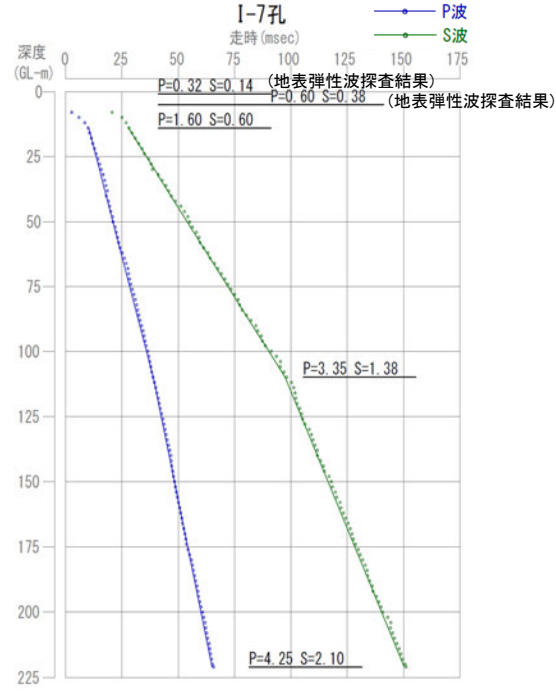
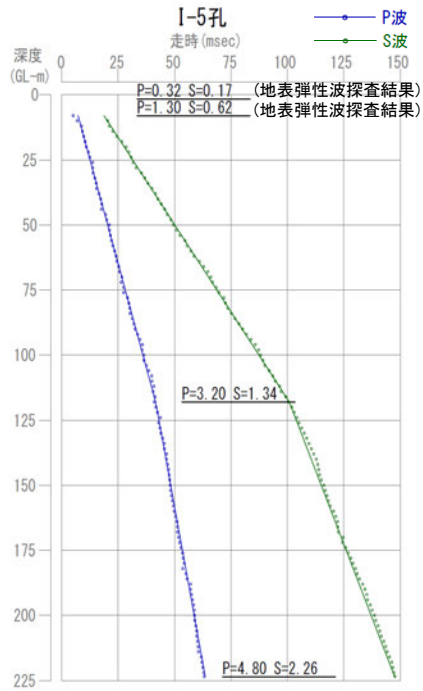
■ 走時曲線(7/11)



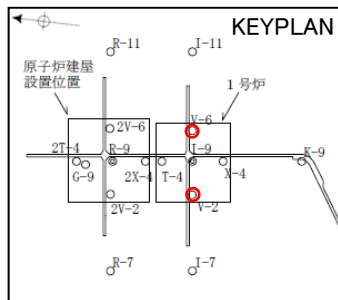
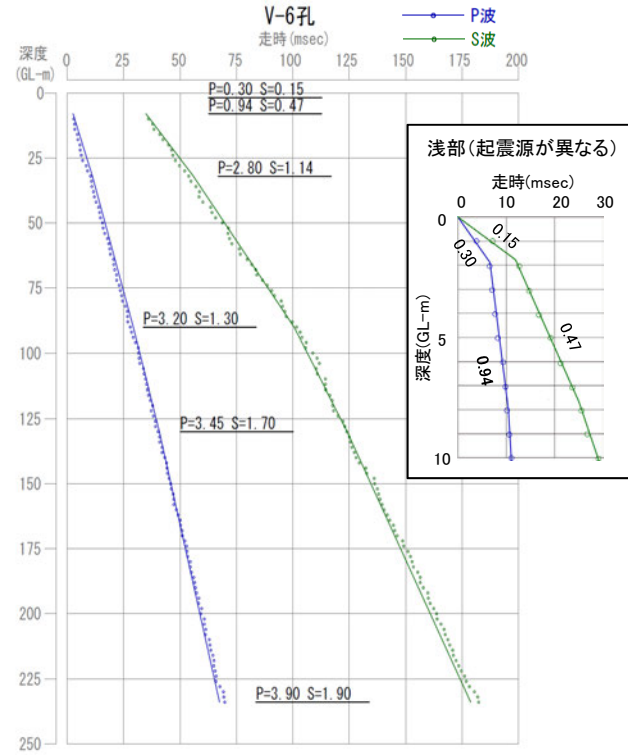
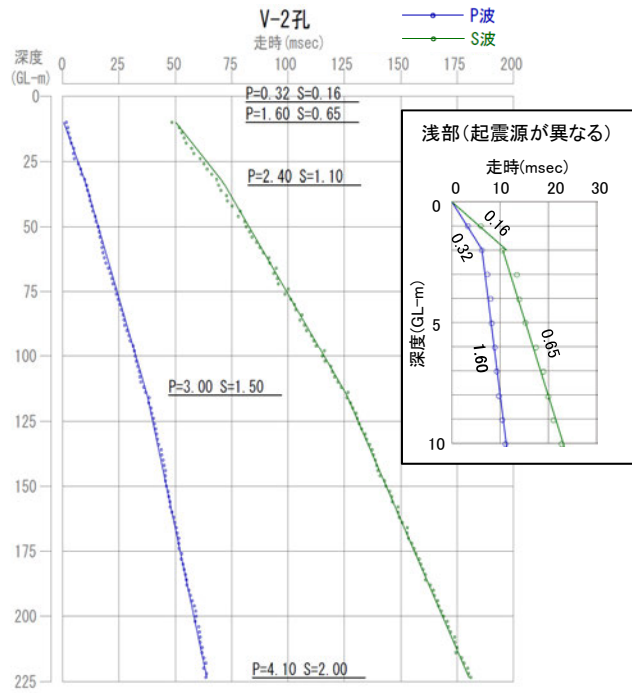
■ 走時曲線(8/11)



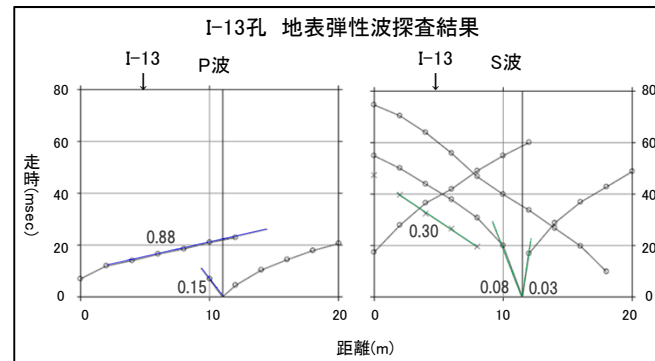
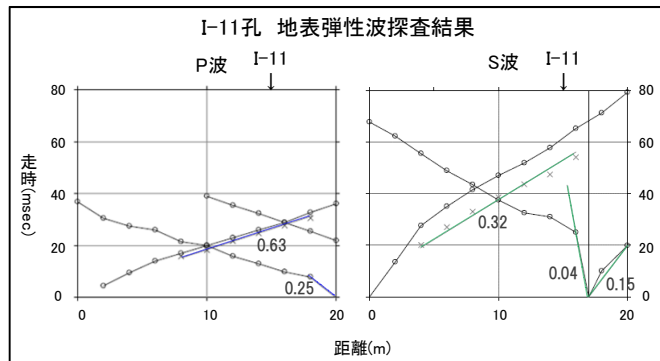
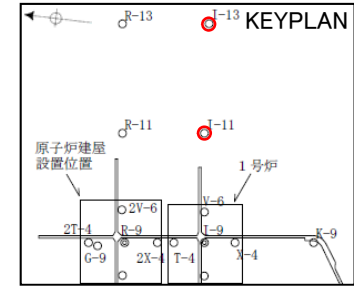
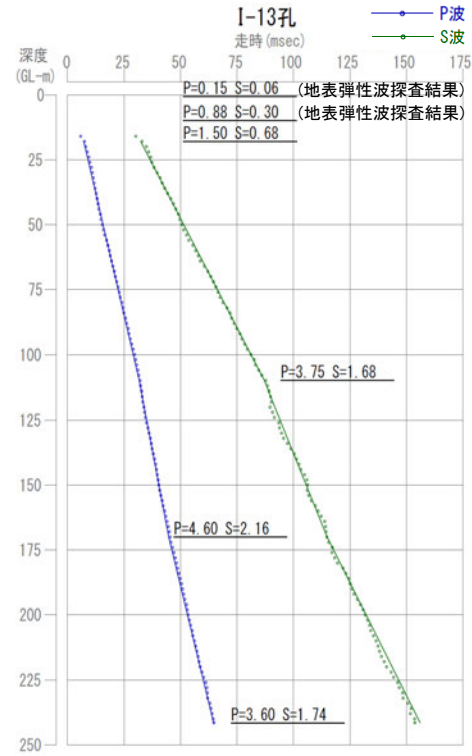
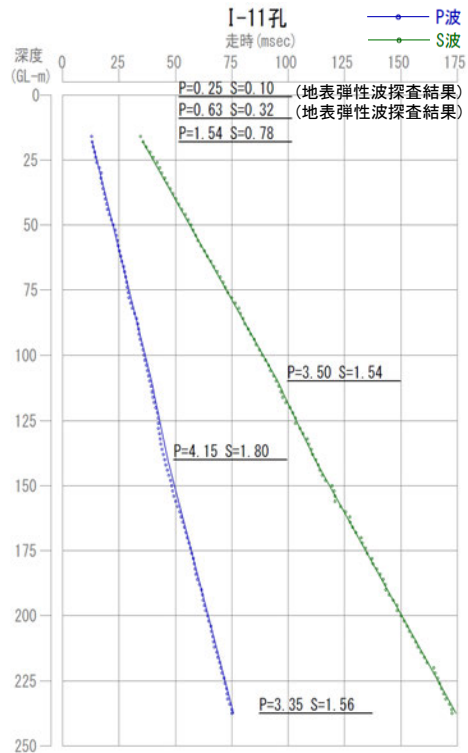
■ 走時曲線(9/11)



■ 走時曲線(10/11)



■ 走時曲線(11/11)



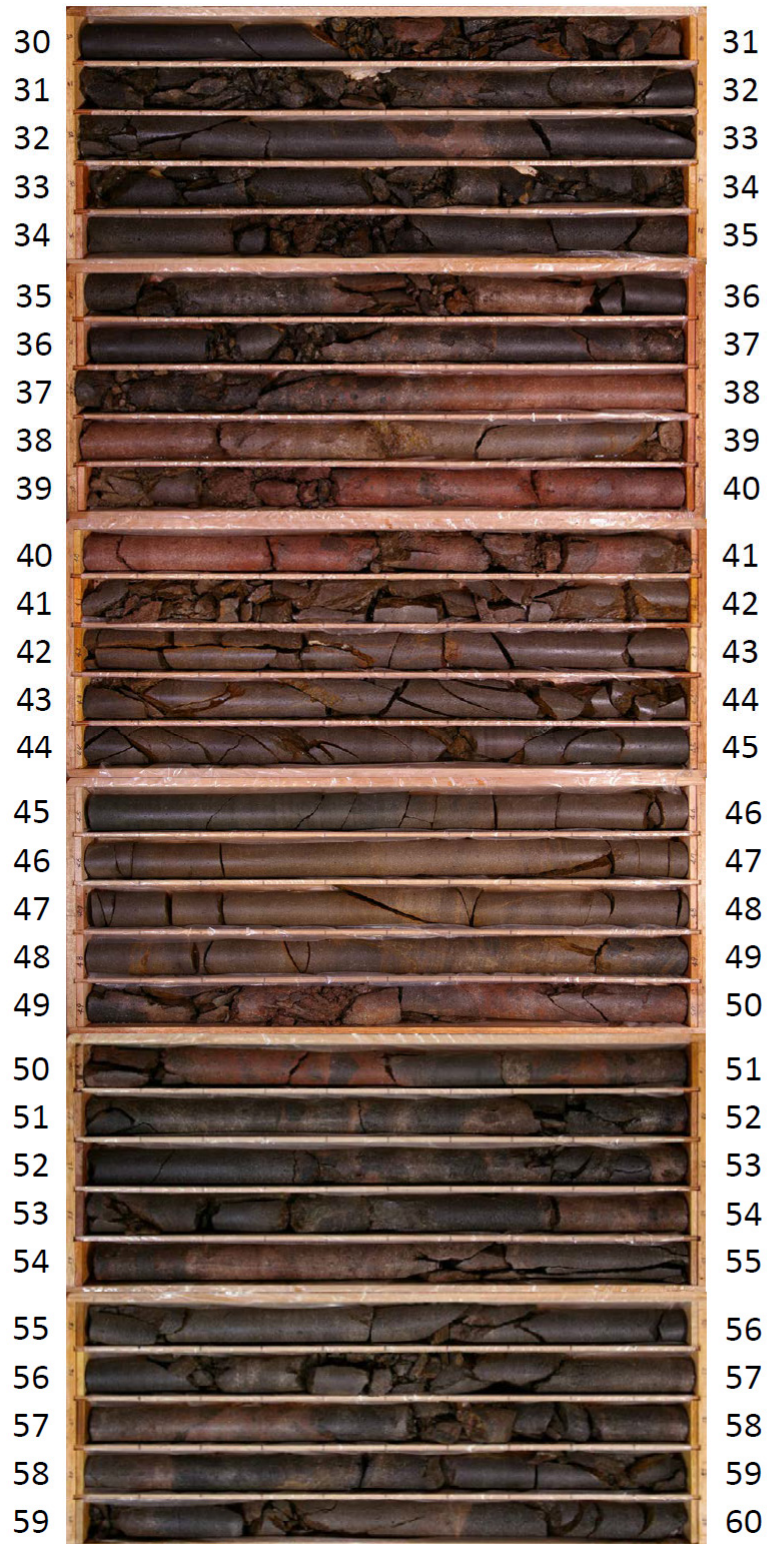
1.2 大深度ボーリング孔(K-13.6孔)を用いた調査結果

コア写真(K-13.6孔)

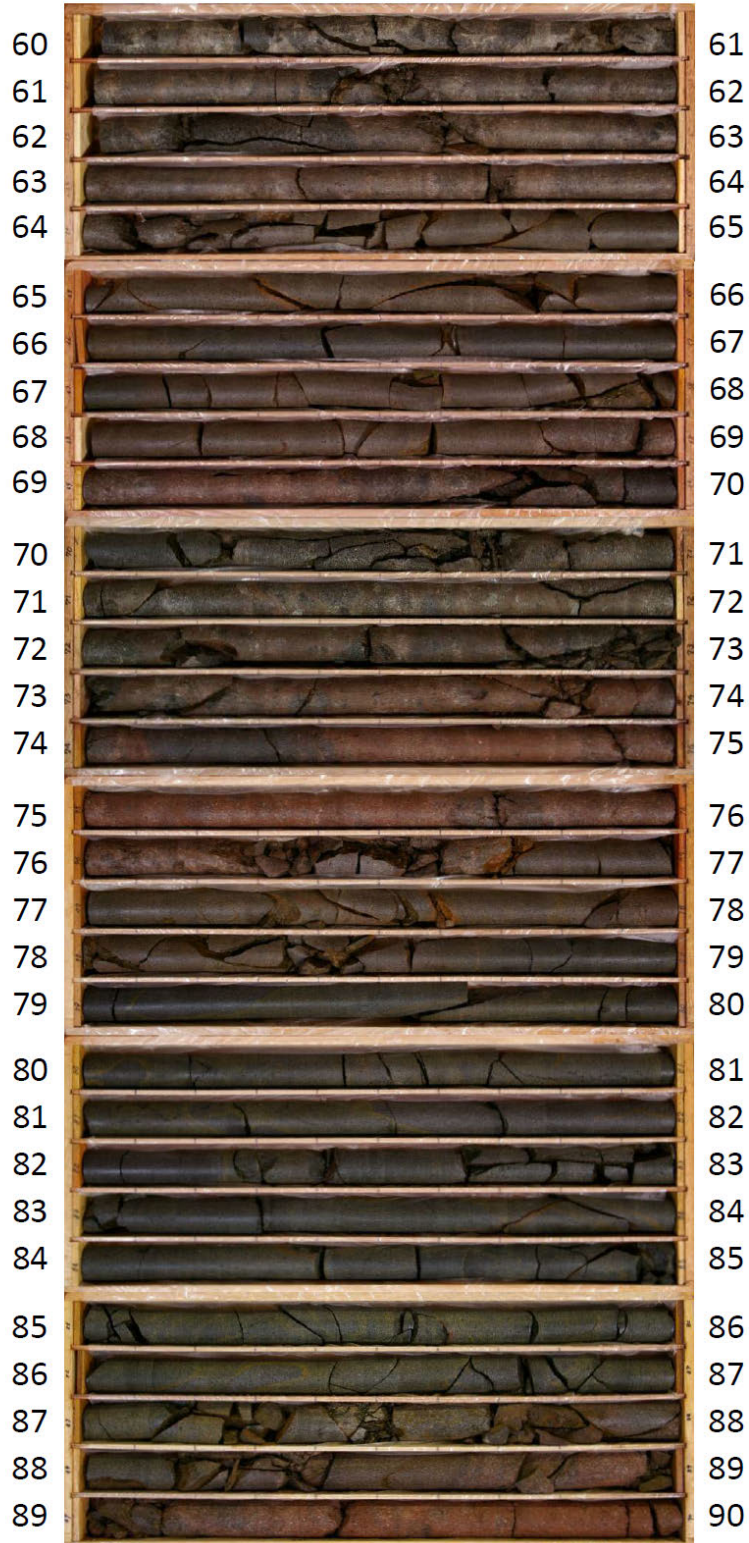
K-13.6(0.00~30.00m)



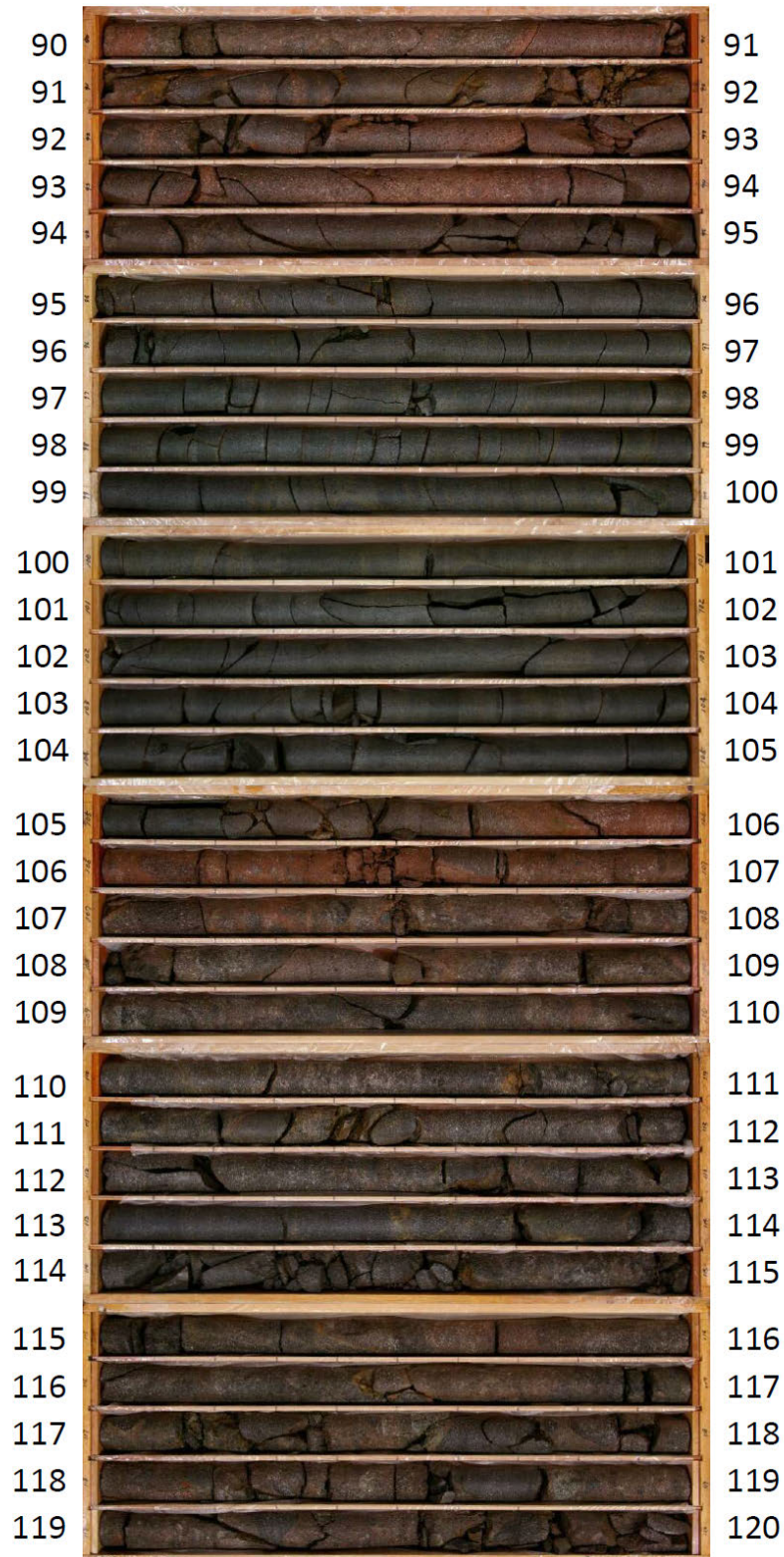
K-13.6(30.00～60.00m)



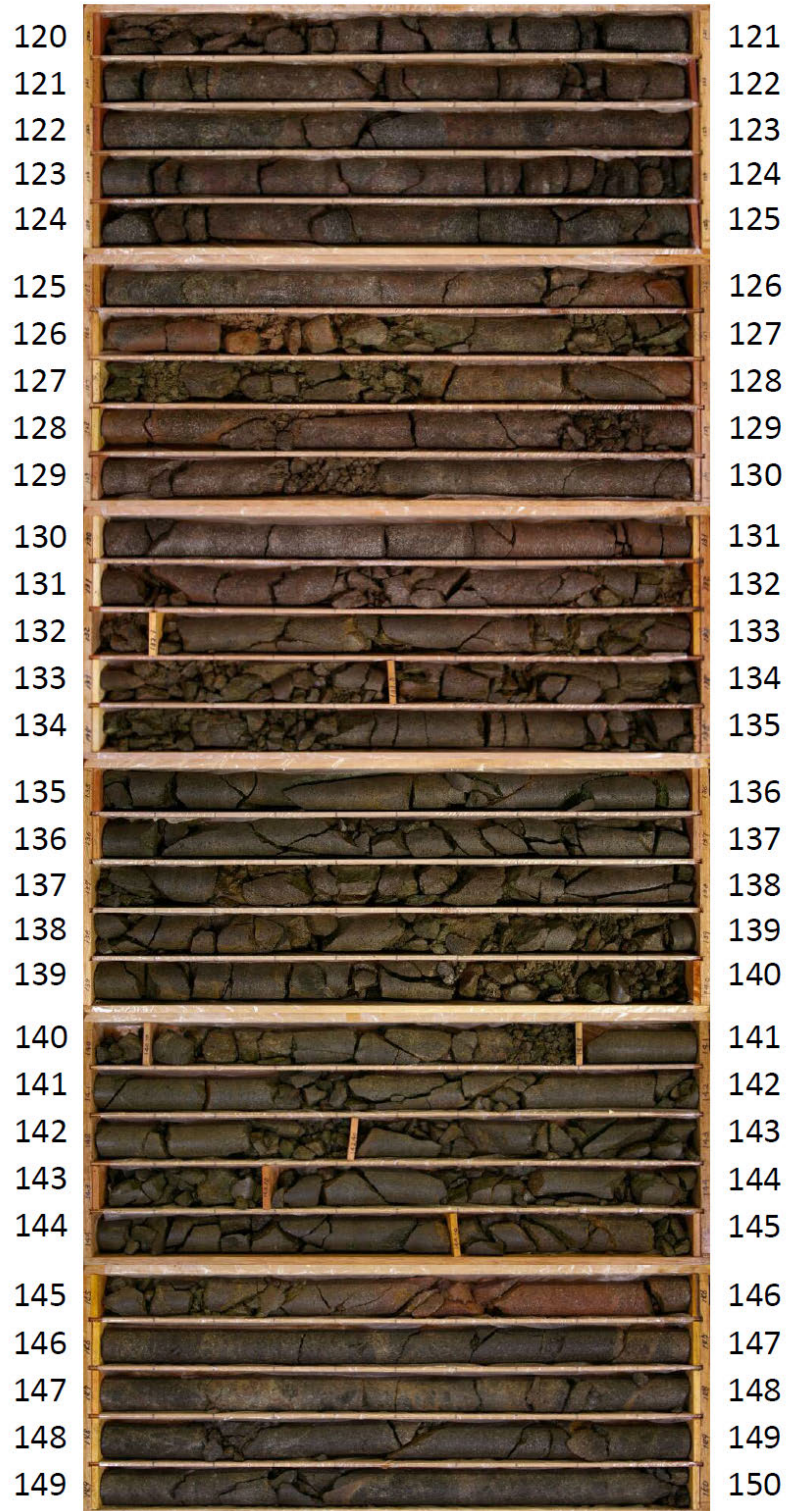
K-13.6 (60.00~90.00m)



K-13.6(90.00~120.00m)



K-13.6(120.00~150.00m)



K-13.6(150.00~180.00m)



K-13.6(180.00~210.00m)



K-13.6 (210.00~240.00m)



K-13.6 (240.00~270.00m)



K-13.6 (270.00~300.00m)



K-13.6 (300.00~330.00m)



K-13.6 (330.00~360.00m)



K-13.6 (360.00~390.00m)



K-13.6 (390.00~420.00m)



K-13.6 (420.00~450.00m)



K-13.6 (450.00~480.00m)



K-13.6 (480.00~510.00m)

480		481
481		482
482		483
483		484
484		485
485		486
486		487
487		488
488		489
489		490
490		491
491		492
492		493
493		494
494		495
495		496
496		497
497		498
498		499
499		500
500		501
501		502
502		503
503		504
504		505
505		506
506		507
507		508
508		509
509		510

K-13.6 (510.00~540.00m)



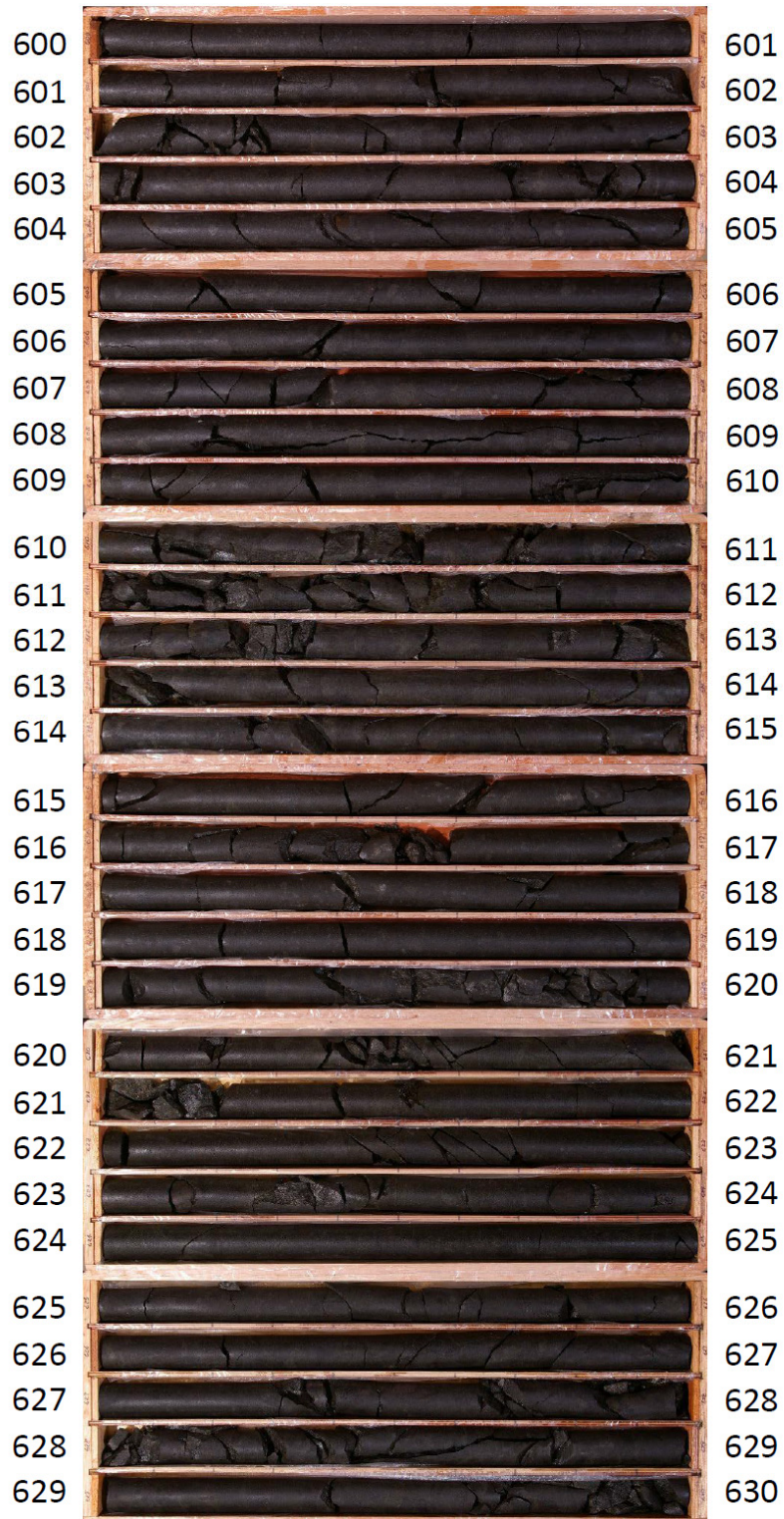
K-13.6(540.00~570.00m)

540		541
541		542
542		543
543		544
544		545
545		546
546		547
547		548
548		549
549		550
550		551
551		552
552		553
553		554
554		555
555		556
556		557
557		558
558		559
559		560
560		561
561		562
562		563
563		564
564		565
565		566
566		567
567		568
568		569
569		570

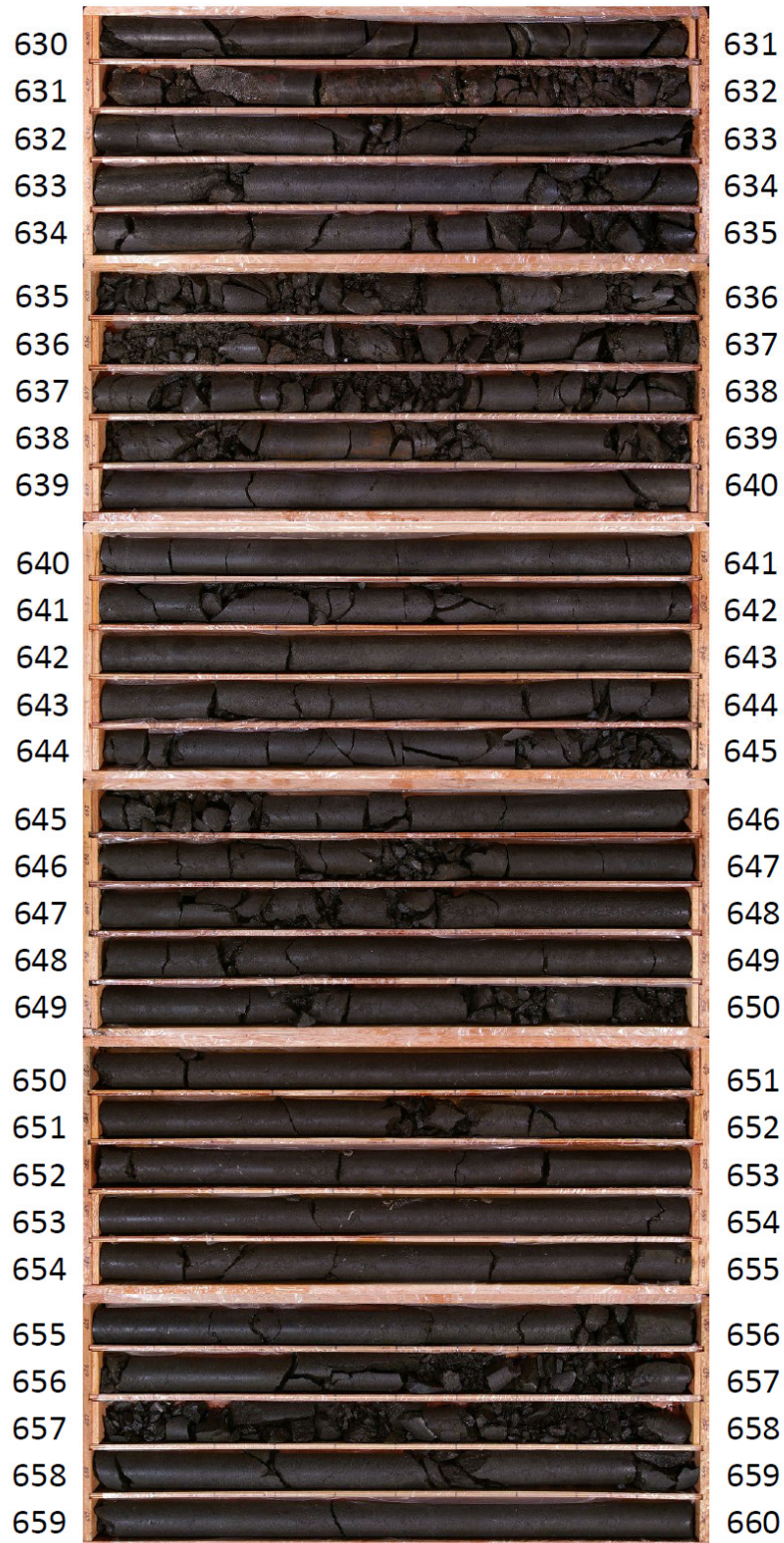
K-13.6 (570.00~600.00m)



K-13.6 (600.00~630.00m)



K-13.6 (630.00~660.00m)



K-13.6 (660.00~690.00m)



K-13.6 (690.00~720.00m)

690		691
691		692
692		693
693		694
694		695
695		696
696		697
697		698
698		699
699		700
700		701
701		702
702		703
703		704
704		705
705		706
706		707
707		708
708		709
709		710
710		711
711		712
712		713
713		714
714		715
715		716
716		717
717		718
718		719
719		720

K-13.6 (720.00~750.00m)

720		721
721		722
722		723
723		724
724		725
725		726
726		727
727		728
728		729
729		730
730		731
731		732
732		733
733		734
734		735
735		736
736		737
737		738
738		739
739		740
740		741
741		742
742		743
743		744
744		745
745		746
746		747
747		748
748		749
749		750







K-13.6 (750.00~780.00m)



K-13.6(780.00~810.00m)



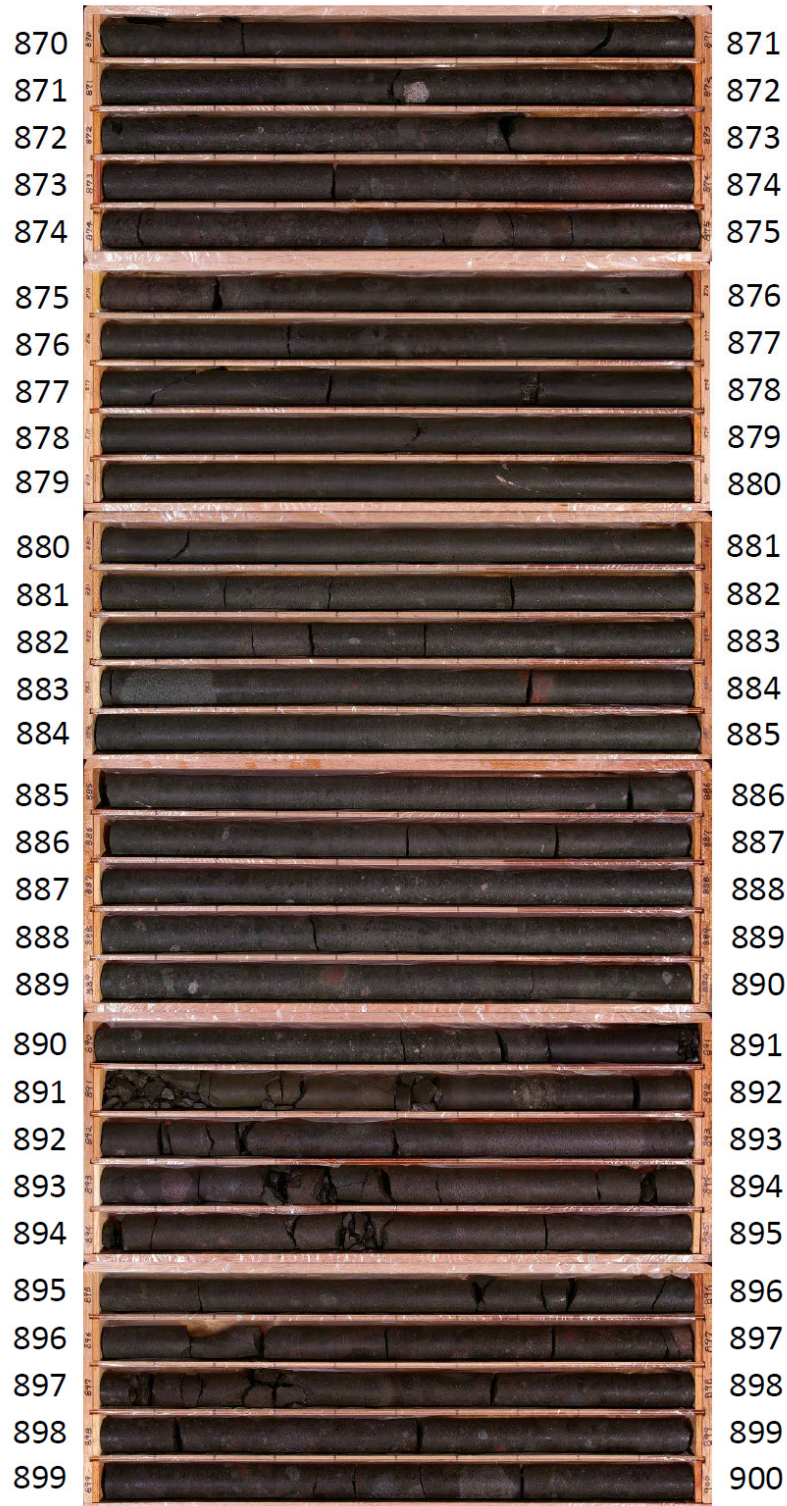
K-13.6(810.00~840.00m)

810		811
811		812
812		813
813		814
814		815
815		816
816		817
817		818
818		819
819		820
820		821
821		822
822		823
823		824
824		825
825		826
826		827
827		828
828		829
829		830
830		831
831		832
832		833
833		834
834		835
835		836
836		837
837		838
838		839
839		840

K-13.6(840.00~870.00m)

840		841
841		842
842		843
843		844
844		845
845		846
846		847
847		848
848		849
849		850
850		851
851		852
852		853
853		854
854		855
855		856
856		857
857		858
858		859
859		860
860		861
861		862
862		863
863		864
864		865
865		866
866		867
867		868
868		869
869		870

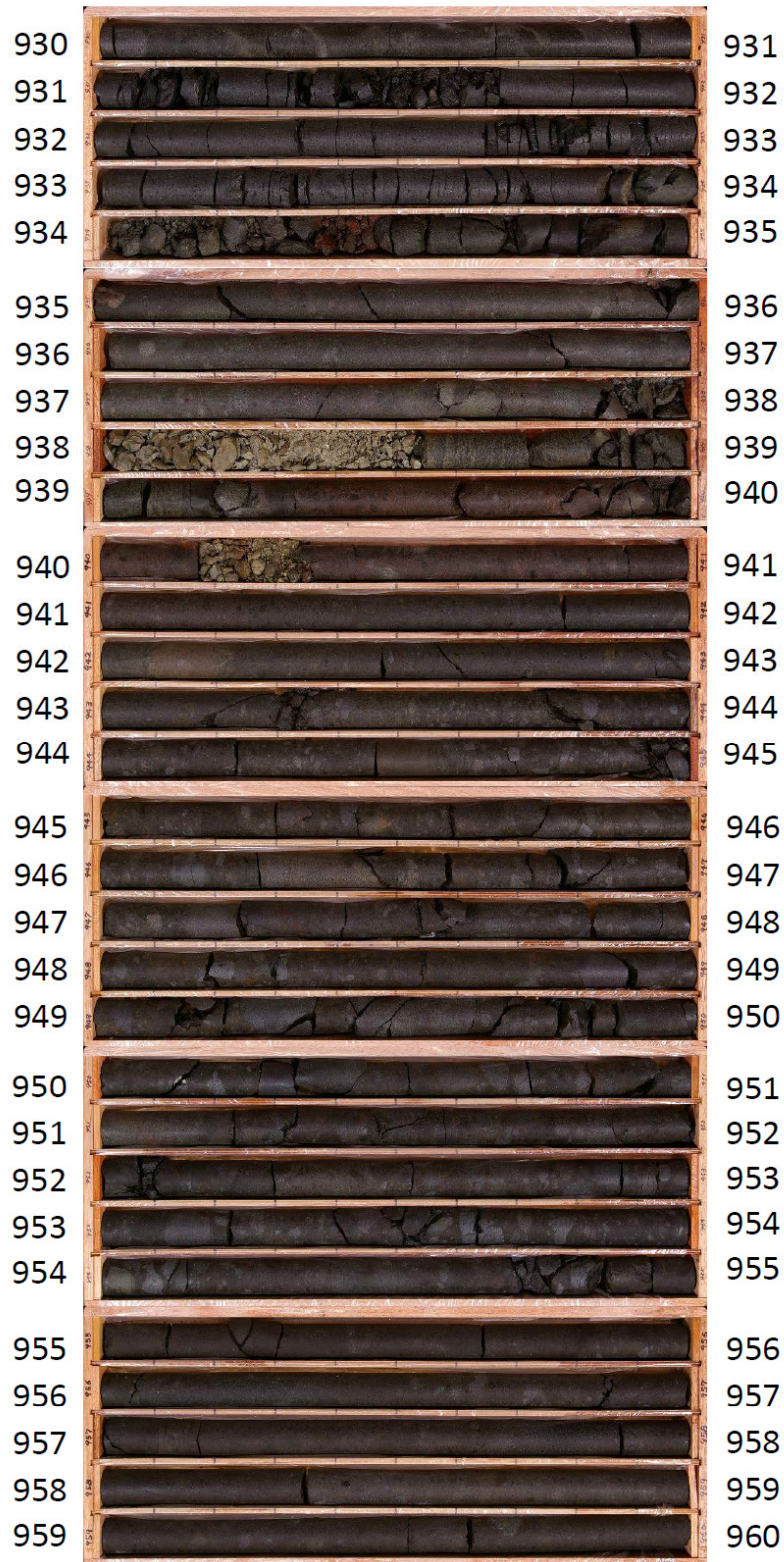
K-13.6 (870.00~900.00m)



K-13.6 (900.00~930.00m)



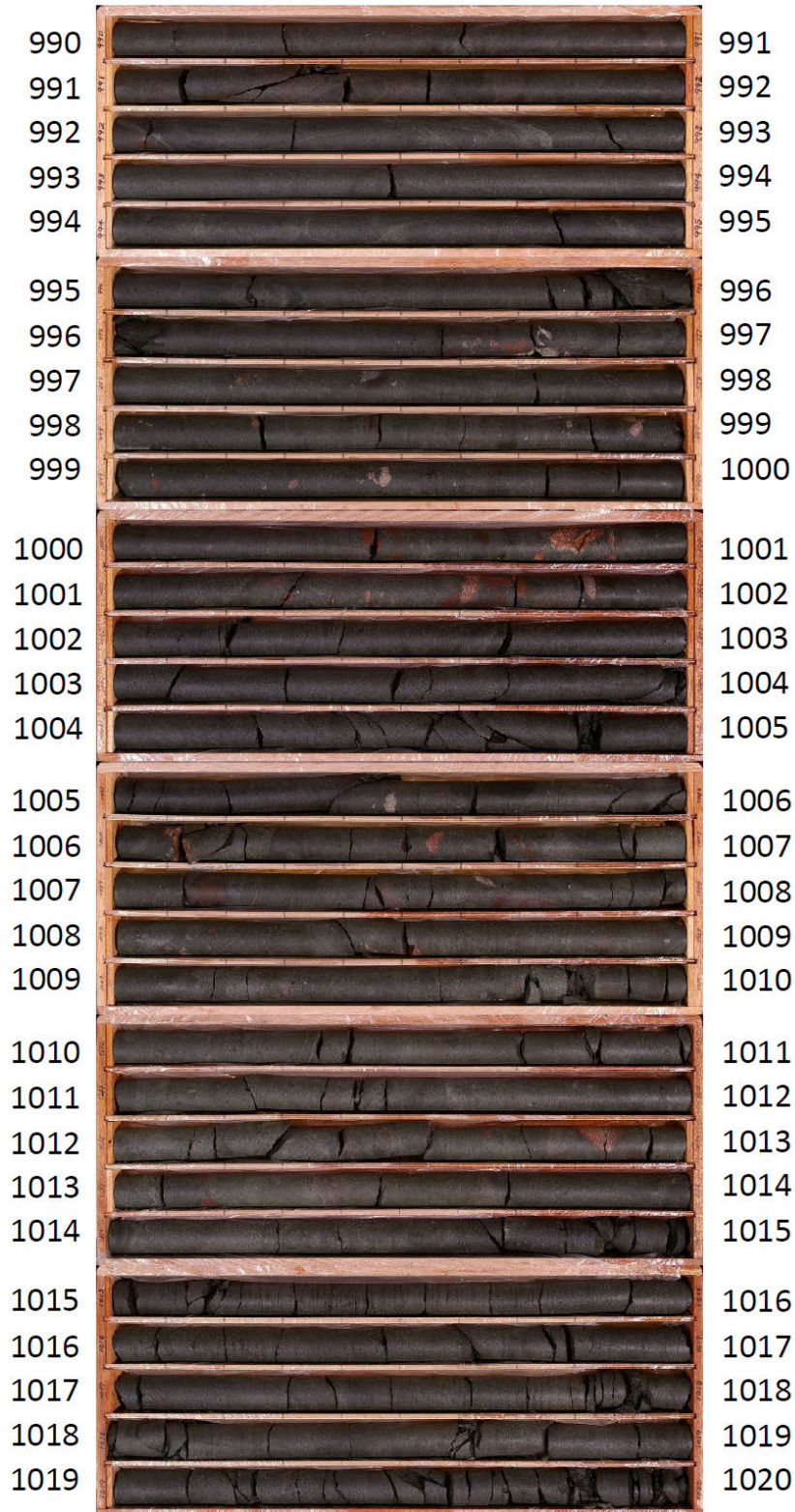
K-13.6 (930.00~960.00m)



K-13.6 (960.00~990.00m)



K-13.6 (990.00~1020.00m)



K-13.6 (1020.00~1050.00m)

































K-13.6(1050.00~1080.00m)

1050		1051
1051		1052
1052		1053
1053		1054
1054		1055
1055		1056
1056		1057
1057		1058
1058		1059
1059		1060
1060		1061
1061		1062
1062		1063
1063		1064
1064		1065
1065		1066
1066		1067
1067		1068
1068		1069
1069		1070
1070		1071
1071		1072
1072		1073
1073		1074
1074		1075
1075		1076
1076		1077
1077		1078
1078		1079
1079		1080



























K-13.6(1080.00~1110.00m)



K-13.6(1110.00~1140.00m)

1110		1111
1111		1112
1112		1113
1113		1114
1114		1115
1115		1116
1116		1117
1117		1118
1118		1119
1119		1120
1120		1121
1121		1122
1122		1123
1123		1124
1124		1125
1125		1126
1126		1127
1127		1128
1128		1129
1129		1130
1130		1131
1131		1132
1132		1133
1133		1134
1134		1135
1135		1136
1136		1137
1137		1138
1138		1139
1139		1140



K-13.6(1140.00~1170.00m)

1140		1141
1141		1142
1142		1143
1143		1144
1144		1145
1145		1146
1146		1147
1147		1148
1148		1149
1149		1150
1150		1151
1151		1152
1152		1153
1153		1154
1154		1155
1155		1156
1156		1157
1157		1158
1158		1159
1159		1160
1160		1161
1161		1162
1162		1163
1163		1164
1164		1165
1165		1166
1166		1167
1167		1168
1168		1169
1169		1170

K-13.6(1170.00~1200.00m)

1170		1171
1171		1172
1172		1173
1173		1174
1174		1175
1175		1176
1176		1177
1177		1178
1178		1179
1179		1180
1180		1181
1181		1182
1182		1183
1183		1184
1184		1185
1185		1186
1186		1187
1187		1188
1188		1189
1189		1190
1190		1191
1191		1192
1192		1193
1193		1194
1194		1195
1195		1196
1196		1197
1197		1198
1198		1199
1199		1200

K-13.6 (1200.00~1230.00m)

1200		1201
1201		1202
1202		1203
1203		1204
1204		1205
1205		1206
1206		1207
1207		1208
1208		1209
1209		1210
1210		1211
1211		1212
1212		1213
1213		1214
1214		1215
1215		1216
1216		1217
1217		1218
1218		1219
1219		1220
1220		1221
1221		1222
1222		1223
1223		1224
1224		1225
1225		1226
1226		1227
1227		1228
1228		1229
1229		1230

K-13.6(1230.00~1253.00m)

1230		1231
1231		1232
1232		1233
1233		1234
1234		1235
1235		1236
1236		1237
1237		1238
1238		1239
1239		1240
1240		1241
1241		1242
1242		1243
1243		1244
1244		1245
1245		1246
1246		1247
1247		1248
1248		1249
1249		1250
1250		1251
1251		1252
1252		1253

K-13. 6 (63の3)		G L = 35. 22m		L = 1253. 0m												標							
標 尺 (m)	月 日	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	岩 級 区 分	※ 硬 さ						※ コアの形状					※ 断 裂 面 の 性 状	記 事	標 尺 (m)		
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II				I	5
41		-5.78	41.00	▽▽▽	安山岩 (角礫質)	赤褐	Bb															41.00~48.45m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 41.00~44.85mは60°以上の割れ目が発達し、岩片状~短柱状コア主体。割れ目面はすべて赤褐色化し、所々に幅1~2mmの黄褐色シルトを挟む。	41
42				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba															45.50~48.45mは20°以下の割れ目が卓越する。面はすべて褐色化している。	42
43				▽▽▽																			43
44				▽▽▽																			44
45				▽▽▽																			45
46				▽▽▽																			46
47				▽▽▽																			47
48				▽▽▽																			48
49		-13.23	48.45	▽▽▽																		48.45~64.50m: 安山岩 (角礫質)。 所々赤色化した角礫化の弱い粗粒~中粒輝石安山岩。	49
50		-13.88	49.10	▽▽▽		赤褐																50.15~50.50mは角礫化が進みφ1~5cmの角礫が卓越する。	50
51		-15.28	50.50	▽▽▽		暗青灰																51.85mに80°の割れ目があり、面は黒褐色化して不明瞭な条線が認められるが、付着物は少ない。	51
52				▽▽▽																			52
53				▽▽▽																			53
54				▽▽▽		赤褐																	54
55		-19.48	54.70	▽▽▽	安山岩 (角礫質)		Bb															55.00~56.10mは安山岩 (均質)の角礫。	55
56				▽▽▽		暗青灰																56.10~56.75mは80°と30~45°の割れ目が交差し岩片状コア主体。面は褐色化し、幅1mmの褐色シルトを挟む。	56
57		-21.78	57.00	▽▽▽																			57
58				▽▽▽																			58
59				▽▽▽		暗青灰 赤褐																	59
60				▽▽▽																			60

※ 硬 さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフにつきささる程度以下 (だく音)。

※ コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱 状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※ 断 裂 面 の 性 状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の5) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)				
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土	細	岩	短	柱			長	砂	片	柱
81				V	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																				82. 75mに85° の割れ目があり、面は暗褐色化して光沢があり、幅1mmの褐灰色砂質シルトを挟む。	81		
82			V																										84. 90mに50° の割れ目があり、面は褐色化して光沢があり、条線が認められ、幅1mmの明褐灰色軟質鉱物を挟む。	82
83			V																											87. 45mに50° の割れ目があり、面は黒褐色化して幅1mmの灰白色軟質鉱物を挟む。 87. 45~87. 75mは自破砕状の固着割れ目が網目状に発達する。
84			V																											
85			V	安山岩 (角礫質)	赤褐	Bb																				91. 85mに80° の割れ目があり、面は褐色化して褐色砂質シルトが少量付着する。	85			
86			V				暗赤褐																						94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	86
87			V																											
88			V																							94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	88			
89		-53. 43	88. 65	V	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																				94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	89		
90				V																										94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。
91				V																						94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	91			
92				V																							94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	92		
93				V																						94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。		93		
94		-58. 78	94. 00	V	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																				94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	94		
95				V																										94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。
96				V																						94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	96			
97				V																							94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	97		
98				V																						94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。		98		
99				V																							94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	99		
100				V																						94. 00~105. 60m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。 94. 30mに70° の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94. 90~101. 35mは20° 以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。		100		

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0. 5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0. 5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の6)		G L = 35. 22m		L = 1253. 0m												標					
標 尺 (m)	月 日	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	岩 級 区 分	※ 硬 さ						※ コアの形状				※ 断表面の性状		記 事	標 尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I		
101				V	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba													101.35~105.60mは20~45°の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化して光沢があり、所々褐色シルトが少量付着する。101.65mに90°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、幅1mmの暗緑色軟質鉱物を挟む。	101
102				V																102	
103				V																103	
104				V																104	
105				V																105	
106		-70.38	105.60	V		赤褐 と 暗灰													105.35mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化して幅1mmの褐色砂混じりシルトを挟む。 105.60~117.70m: 安山岩 (角礫質)。 105.60~107.60mは赤色化した角礫化のやや進んだ中粒輝石安山岩。	106	
107				V																107	
108		-72.38	107.60	V		暗灰 と 赤褐													107.60~117.70mは角礫化の弱の中粒輝石安山岩。やや多孔質でコア肌は粗い。	108	
109				V																109	
110		-74.68	109.90	V																110	
111				V	安山岩 (角礫質)	暗灰	Bb													111	
112				V																112	
113				V															113.00~113.50mは安山岩 (均質) の角礫。	113	
114				V															114.10~114.60mは20~50°の割れ目が発達し、岩片状となるが、面は概ね新鮮である。	114	
115				V																115	
116				V		黄褐														116	
117				V															116.50mに60°の割れ目があり、面は小凹凸があり、黒褐色化して不明瞭な条線が認められるが、付着物はほとんどない。	117	
118		-82.48	117.70	△	凝灰角 礫岩	赤褐 と 暗青灰 と 明緑灰													117.70~124.60m: 凝灰角礫岩。 やや赤色化した基質中にφ1~4cm、最大約15cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。基質はやや脆弱でコア肌は粗い。	118	
119				△																119	
120				△																120	

※ 硬 さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※ コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱 状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※ 断表面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6(63の9) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	地質 名	色調	岩級 区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)	
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2			1
161		-125.63	160.85	▽▽▽▽ △△△△	安山岩 (角礫質)	暗紫灰 ～ 黄褐																			160.85～206.75m: 凝灰角礫岩。 160.85～177.60mは細粒砂～中粒砂サイズの基質中にφ1～3cm、最大約20cmの様々な色調の角礫を多量に含む(礫分50～70%)。 礫種は淡黄色のデイサイトが卓越し、暗青灰色～暗赤褐色の輝石安山岩が混じる。 所々に幅15～20cmの細粒凝灰岩を挟む。 161.00mに50°の褐色割れ目があり、幅4～5mmの暗赤褐色シルトを挟み、不明瞭ながらほぼ水平な条線が認められる。 下盤側に幅2～3cmの赤褐色細粒凝灰岩を挟む。 162.15mに70°の割れ目があり、面は褐色化して不明瞭ながら10～30°の条線が認められ、幅1mmの黄褐色細粒砂を挟む。	161
162				△△△△		淡黄																			162	
163				△△△△																					163	
164				△△△△																					164	
165				△△△△																					165	
166				△△△△																					165.55mに50°の割れ目があり、面は黒褐色化して不明瞭ながら高角度の条線が認められるが、付着物はほとんどない。	166
167				△△△△																					167	
168				△△△△																					168	
169				△△△△																					169.00～169.50mに85°のわん曲した割れ目があり、面はほぼ新鮮だが約45°の条線が認められる。	169
170				△△△△			Bb																		170	
171				△△△△																					171	
172				△△△△																					172.15mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、高角度の条線が認められるが、付着物はほとんどない。	172
173				△△△△																					173	
174				△△△△																					174	
175				△△△△																					175	
176				△△△△																					176.30mに60°の割れ目があり、面は部分的に黒褐色化して高角度の条線が認められるが、付着物はほとんどない。	176
177				△△△△																					177	
178		-142.38	177.60	△△△△																					177.60～180.50mはφ5～20cmの暗青灰色～暗赤褐色中粒輝石安山岩角礫が密集する。基質はシルト～細粒砂サイズ。	178
179				△△△△																					179	
180				△△△△																					180	

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフにつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状(全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状(長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の10) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)		
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	砂片柱状	柱状	長柱状	短柱状			土細岩	土細岩
181		-145.28	180.50	△△△		暗青灰 暗赤褐																				180.50~187.15mは細粒砂~中粒砂サイズの褐色基質中にφ1~5cm、最大約15cmの様々な色調の角礫を多量に含む(礫分40~60%)。礫種は暗青灰色~暗赤褐色の輝石安山岩が卓越し、淡黄色デイスাইトが少量混じる。	181
182				△△△		暗青灰																					182
183				△△△		暗赤褐																					183
184				△△△		暗赤褐																					184
185				△△△		淡黄																					185
186				△△△		褐																					186
187		-151.93	187.15	△△△		暗青灰																				187.15~206.75mが細粒砂~中粒砂サイズの褐色基質中にφ1~3cmの暗青灰色~暗赤褐色の輝石安山岩角礫を含む(礫分30~50%)。所々にφ25~40cmの角礫を含む。	187
188				△△△		暗青灰	Bb																				188
189				△△△	凝灰角礫岩	暗青灰	Bb																				189
190				△△△	凝灰角礫岩	暗青灰	Bb																				190
191				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																			191.40mに65°の割れ目があり、面は平滑で、褐色化して不明瞭な条線が認められる。付着物はほとんどないが、下盤側に幅1~2mmの赤褐色細粒凝灰岩を挟む。	191
192				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																				192
193				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																				193
194				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																				194
195				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																				195
196				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																				196
197				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																				197
198				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																				198
199				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																				199
200				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																				200

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状(全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状(長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の12) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱	長砂片	柱状	柱状		
221				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗黒	Bb																			
222				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	オリブ褐	Bb																			
223				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	オリブ褐	Bb																			
224		-188.68	223.90	▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		224	
225				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
226		-190.53	225.75	▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰	Bb																		226	
227				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗赤褐	Bb																			
228		-192.48	227.70	▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		228	
229				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
230				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
231				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
232				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
233				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
234		-198.58	233.80	▽▽▽	安山岩 (均質)	青黒	Ba																		234	
235				▽▽▽	安山岩 (均質)	青黒	Ba																			
236				▽▽▽	安山岩 (均質)	青黒	Ba																			
237				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗赤褐	Bb																		237	
238				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗赤褐	Bb																			
239				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗赤褐	Bb																			
240		-204.78	240.00	▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗赤褐	Bb																		240	

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつかささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の13) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)					
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土	細	岩	短			柱	長	砂	片	柱
241				V	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																				240.00~248.10m: 安山岩 (均質)。 細粒輝石安山岩。 20~40° と60° 以上の割れ目が交差して発達するため、半柱状~岩片状コア主体となる。割れ目は概ね暗緑色化して光沢があり、しばしば幅1~2mmの暗緑色軟質鉱物を挟む。	241		
242				V																								242		
243				V																								243		
244				V																								244		
245				V																								245		
246				V																								246		
247				V																							246.30~248.10mは幅1~2mmの暗緑色軟質鉱物を挟む潜在割れ目が網目状に発達する。	247		
248		-212.88	248.10	V																							248.10~264.75m: 安山岩 (角礫質)。 248.10~250.60mは自破砕状の細粒輝石安山岩。 248.10~248.35mは50° の平行割れ目に挟まれ脆弱化している。	248		
249				V		暗青灰																						249		
250				V		暗褐																						250		
251		-215.48	250.70	V		赤褐																					250.60~264.75mは角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩。所々角礫化がやや進み赤褐色~緑灰色の角礫を含む部分を挟む。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。 250.70~251.60mは赤色化し、角礫化がやや進んでいる。	251		
252		-216.38	251.60	V																								252		
253				V																								253		
254				V		暗青灰																						254		
255				V																								255		
256				V	安山岩 (角礫質)																							256		
257				V																								257		
258				V		灰褐	Bb																					258		
259				V																								259		
260				V																								260		

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の14)		G L = 35.22m		L = 1253.0m																						
標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)	
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2			1
261				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰	Bb																			
262				▽▽▽▽▽	灰褐																					
263				▽▽▽▽▽																						
264				▽▽▽▽▽																						
265		-229.53	264.75	△△△△△	凝灰角礫岩	暗青灰 緑灰 暗赤褐																				
266				△△△△△																						
267				△△△△△																						
268				△△△△△																						
269		-233.73	268.95	▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																				
270				▽▽▽▽▽																						
271				▽▽▽▽▽																						
272				▽▽▽▽▽																						
273				▽▽▽▽▽																						
274				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																				
275				▽▽▽▽▽																						
276				▽▽▽▽▽		灰赤																				
277				▽▽▽▽▽																						
278				▽▽▽▽▽																						
279		-243.33	278.55	▽▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰 暗赤灰	Ba																			
280				▽▽▽▽▽																						

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6(63の18) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断断面の性状					記事	標尺 (m)			
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2	1					
341				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰	Bb																				全体的には亜金属音を発するが、角礫自体は金属音を発する。45~60°の割れ目が発達する。339.60mに70°の割れ目があり、岩片状となる。面は青緑色軟質鉱物が付着し幅1mmの褐色砂混じりシルトを挟む。341.20mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢がある。青緑色軟質鉱物が少量付着し、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。	341	
342				▽▽▽	暗赤褐																						342.10mに60°の割れ目があり、面は暗赤褐色化して光沢がある。青緑色軟質鉱物が少量付着し、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。	342	
343				▽▽▽	暗赤褐																						342.55mに45°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢と不明瞭な条線がある。付着物はほとんどないが、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。	343	
344				▽▽▽	暗赤褐																						344.40mに45°の割れ目があり、面はほぼ新鮮であるが、幅1~2mmの褐色砂混じりシルトを挟む。	344	
345		-309.48	344.70	▽▽▽	凝灰角礫岩	暗赤褐																					344.70~345.40mは角礫化の弱い中粒輝石安山岩。全般に赤色化し、角礫の境界は不明瞭。全般に亜金属音を発する。	345	
346		-310.18	345.40	△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐																					下層との境界は漸移的で密着している。345.40~347.10m：凝灰角礫岩。赤色化したシルト~粗粒砂サイズの基質中にφ1~3cm、最大約8cmの角礫を含む。撹分40~60%。角礫は細粒~中粒輝石安山岩で、赤褐色~黄褐色~灰色を呈する。全般に亜金属音を発する。	346	
347		-311.88	347.10	▽▽▽	安山岩 (角礫質)	明緑灰																					下層との境界は約30°で密着している。347.10~351.85m：安山岩 (角礫質)。角礫化の弱い中粒輝石安山岩。赤色化していないものの角礫の境界は不明瞭で、全般に亜金属音を発する。割れ目は少なく、長柱状コアが連続する。	347	
348				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	青灰																						349.20mに25°の割れ目があり、面は新鮮で明灰色軟質鉱物が少量付着する。	348
349				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	青灰																							349
350				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	青灰																							350
351				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	青灰																							351
352		-316.63	351.85	△△△	凝灰角礫岩	暗青灰																					下層との境界は約40°で密着している。351.85~354.70m：凝灰角礫岩。弱く褐色化したシルト~細粒砂サイズの基質中にφ1~5cm、最大約10cmの角礫を含む。撹分40~60%。角礫は暗色の細粒~中粒輝石安山岩が主体で、赤褐色や黒色多孔質安山岩も点在する。全般に亜金属音を発する。割れ目は少なく、あってもほぼ水平で、面は新鮮である。	352	
353				△△△	凝灰角礫岩	明緑灰																						353	
354				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐																						354	
355		-319.48	354.70	▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																				下層との境界は約30°で密着している。354.70~359.05m：安山岩 (角礫質)。354.70~359.05mは角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩。赤色化は弱く、角礫は暗色を呈するものの境界は不明瞭で、全般に亜金属音を発する。	355		
356				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																						356	
357				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																						357	
358				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	赤灰																						358	
359		-323.83	359.05	▽▽▽	安山岩 (角礫質)	青黒																				359.05~362.45mは自破砕状の細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色・緻密で境界は明瞭。全般に亜金属音を発するが、大きな角礫のなかには金属音を発するものがある。359.10mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化し光沢がある。青緑色軟質鉱物が少量付着し、幅約2mmはフィルム状に剥がし易い。	359		
360				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	黒褐																						360	

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断断面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6(63の19) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	地質 名	色調	岩級 区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2	1		
361				▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	青黒																			361	
362			362.45	▽▽▽▽		黒褐																			362	
363		-327.23	363.65	△△△△		赤褐 オリブ 灰																			363	
364		-328.43		△△△△																					364	
365				△△△△																					365	
366				△△△△																					366	
367				△△△△																					367	
368				△△△△																					368	
369				△△△△		オリブ 灰																			369	
370				△△△△			Bb																		370	
371				△△△△																					371	
372				△△△△																					372	
373				△△△△																					373	
374				△△△△																					374	
375				△△△△																					375	
376				△△△△																					376	
377				△△△△																					377	
378				△△△△																					378	
379				△△△△																					379	
380				△△△△																					380	

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の20) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	砂片状	柱状	柱状	柱状	柱状		
381				△△△		オリブ灰																				381
382		-346.53	381.75	△△△		青灰																			381.75~383.85mは赤色化し、暗赤褐色の角礫が増えるなど、下層との漸移的な岩相になる。	382
383				△△△		赤褐																				383
384		-348.63	383.85	△△△		オリブ褐																				384
385				△△△	凝灰角礫岩	赤																			383.85~389.15mは著しく赤色化したシルト~細粒砂サイズの基質中にφ1~3cm、最大約10cmの角礫を含む。礫分40~60%。 礫種は暗赤褐色~暗青灰色の輝石安山岩及び明褐色で境界が不明瞭な輝石安山岩、黄灰色火山岩（デイサイト~流紋岩質）など多様である。 全般に亜金属音であるが、暗色の大きな角礫の中には金属音を発するものがある。 割れ目は少なく、あっても20°以下の低角度の割れ目が卓越し、面は緩新である。	385
386				△△△		赤																				386
387				△△△		赤褐																				387
388				△△△		赤褐																				388
389		-353.93	389.15	▽▽▽			Bb																		388.80mに55°の割れ目があり、面は暗灰色~暗褐色化し微細な鉱物が晶出している。 下層との境界は約40°で密着している。 389.15~409.15m - 安山岩（角礫質）。 角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩が卓越し、所々に幅20~50cmの角礫化のやや進んだ部分を挟む。 角礫は暗色、やや多孔質で境界が不明瞭なものが卓越するが、緻密で境界が明瞭なものを混在する。 全般に亜金属音であるが、緻密で大きな角礫は金属音を発する。 割れ目は少なく長柱状コアが連続する。	389
390				▽▽▽																						390
391				▽▽▽																						391
392				▽▽▽																						392
393				▽▽▽		暗青灰																				393
394				▽▽▽																						394
395				▽▽▽	安山岩 (角礫質)																					395
396				▽▽▽		オリブ褐																				396
397				▽▽▽																						397
398				▽▽▽																					397.30~397.80mは70°のわん曲した割れ目が交差し、半柱状コアとなる。面はやや黒褐色化した所々に黄褐色シルトが付着する。	398
399				▽▽▽																						399
400				▽▽▽																						400

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F : 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下（だく音）。

※コアの形状

- I : 長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- II : 柱状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- III : 短柱状（全周を有し10cm未満）
- IV : 岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- V : 細片状（長さ4cm未満の岩片）
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の22) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断断面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2		
421		-385.93	421.15	△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐 暗青灰	Bb																	420.20~422.40mは基質の赤色化が弱くなる。 421.15~421.30mは40~50°の平行割れ目により岩片状コアとなる。面はいずれも黒褐色化しているが付着物はほとんどない。 422.15mに50°の割れ目があり、面はほぼ新鮮だが水平に近い不明瞭な条線が認められる。 422.40~425.10mは基質の色調がオリブ褐色に変化する。	421
422				△△△																					422
423				△△△																					423
424				△△△																					424
425		-389.88	425.10	▽▽▽																				下層との境界は漸移的で密着している。 425.10~446.60m: 安山岩 (角礫質) 425.10~431.15mは角礫化のやや進んだ細粒~中粒輝石安山岩。 角礫は暗色・緻密で境界は明瞭。 全般に垂金属音であるが、大きな角礫は金属音を発する。割れ目は少なく柱状~長柱状コアが連続する。面は概ねやや白色~新鮮で付着物はほとんどない。 425.10~433.60mは角礫間は赤色化している。 全般に垂金属音であるが大きな角礫は金属音を発する。割れ目は20°以下と50~60°のものが卓越し、面は新鮮~やや明灰色化する。	425
426				▽▽▽																					426
427				▽▽▽																					427
428				▽▽▽																				427.75mは45~50°の割れ目が交差し岩片状コアとなる。面はやや白色化するが付着物はほとんどない。 428.30mは20°の平行割れ目があり岩片状コアとなる。面はやや白色化するが付着物はほとんどない。	428
429				▽▽▽																					429
430				▽▽▽																					430
431		-395.93	431.15	▽▽▽																				430.85mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化しオリブ褐色シルトが少量付着する。 431.15~435.90mは角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩。 角礫は暗色で、境界が明瞭なものと同不明瞭なものとの混在する。	431
432				▽▽▽																					432
433		-398.38	433.60	▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗赤褐																			433
434				▽▽▽																				433.65mは60°と50°の割れ目が交差し岩片状コアとなるが、面は概ね新鮮である。	434
435				▽▽▽																					435
436		-400.68	435.90	▽▽▽																				435.90~445.00mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒~中粒輝石安山岩。 角礫の間を概ね幅1~2mmの鉱物や暗緑色~黄灰色の軟質鉱物が充填している。 金属音を発する部分と垂金属音を発する部分との混在する。ほとんどの割れ目は黒褐色化し光沢がある。	436
437				▽▽▽																					437
438				▽▽▽																					438
439				▽▽▽																				438.70mに40°の割れ目があり、面は黒褐色化して幅3~6mmの暗緑色軟質鉱物を挟む。	439
440				▽▽▽																					440

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (垂金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (垂金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフにつきささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断断面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の25) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)		
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2			1	
481				V	安山岩 (均質)		Ba																			480.00~481.40mは潜在割れ目が網目状に発達する。固着割れ目にはハンマーの軽打で分離するものもあり、面は黒褐色化して光沢がある。	481
482				V																							482
483		-447.73	482.95	V																						482.35mに25°の割れ目があり、面は黒褐色化して高角度の条線が認められ、褐色シルトが付着している。下層との境界は漸移的に密着している。	483
484				V																						482.95~537.05m: 安山岩 (角礫質)。482.95~486.30mは角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色、やや多孔質で境界は不明瞭なものが卓越する。全般に亜金属音を発する。	484
485				V	暗青灰																					482.95~514.80mは角礫は暗色、やや多孔質で斜長石斑晶が目立ち、境界はやや不明瞭なものが卓越する。所々φ1~2cmの角礫が卓越する部分を挟む。全般に亜金属音であるが、φ5cm以上の緻密角礫は金属音を発する。	485
486				V																						割れ目は少なく概ね20°以下で面は新鮮である。	486
487				V																						484.20~484.80mは20~60°の割れ目が発達する。面は黒褐色化しているが付着物は少ない。	487
488				V																						484.85~485.15mは安山岩 (均質)の角礫。	488
489				V																						486.30~491.00mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒~輝石安山岩。全般に金属音を発する。	489
490				V																						割れ目は20~50°が卓越し、面は黒褐色化し光沢がある。	490
491		-455.78	491.00	V	安山岩 (角礫質)		Bb																			488.15mに80°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、ほぼ水平な条線が認められ、幅1mmのオリープ褐色シルトを挟む。	491
492				V																						489.10~489.90mは固着割れ目が網目状に発達する。	492
493				V																						489.30mに75°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、ほぼ水平な条線が認められ、褐色シルトが付着する。	493
494				V																							494
495				V																						491.00~497.15mは角礫化のやや進んだ中粒輝石安山岩。角礫は暗色で斜長石斑晶が目立ち、境界が明瞭なものと同不明瞭なものとの混在する。所々にφ1~2cmの角礫が卓越する部分を挟む。全般に亜金属音を発する。	495
496				V																						割れ目は少なく、面も概ね新鮮である。	496
497				V																							497
498				V																						494.90mに80°の割れ目があり、面は黒褐色化してやや光沢があり、ほぼ水平な条線が認められ、黄灰色軟質鉱物がわずかに付着する。	498
499				V																						495.45~495.65mは緻密な角礫が密集し金属音を発する。	499
500				V																						497.15~499.70mは角礫化の弱い中粒輝石安山岩。φ10~30cmの緻密な角礫が卓越する。全般には亜金属音であるが、角礫は金属音を発するものが多い。	500
				V																						割れ目は少なく、面も概ね新鮮である。	
				V																						499.70mに30°の割れ目があり、下面に沿った虫食い状空洞に黄灰色鉱物が晶出している。	

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の26) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2		
501				V		暗青灰	Bb																	499. 70~504. 80mは角礫化のやや進んだ細粒~中粒輝石安山岩。角礫はやや多孔質で境界が不明瞭なものと、緻密で境界が明確なものとの混在する。所々φ1~2cmの角礫が卓越し、凝灰角礫岩となる。全般に垂金属音であるが、緻密な角礫は金属音を発する。割れ目は少なく、面も概ね新鮮である。501. 60mに80°の割れ目があり、岩片状コアとなる。面は黒褐色化し、黄褐色シルトが付着する。	501
502				V		褐																			502
503				V																					503
504				V																					504
505			-469. 58	504. 80	V																			504. 80~506. 85mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒~中粒輝石安山岩。全般に金属音を発する。20~60°の割れ目が発達し、面は黒褐色化して光沢がある。	505
506					V																			505. 90mに75°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、暗緑褐色シルトが少量付着する。	506
507			-471. 63	506. 85	V																			506. 85~533. 95mは角礫化の弱い中粒輝石安山岩。	507
508					V																				508
509					V																				509
510					V		Bb																	安山岩 (角礫質)	510
511					V																				511
512					V																				512
513					V																				513
514					V																				514
515			-479. 58	514. 80	V																			514. 80~531. 10mはやや多孔質な角礫が減少し、緻密な角礫が卓越するようになり、境界が明確なものとの不明瞭なものとの混在する。	515
516					V																			515. 20~516. 95mは角礫間に葉理をもつ暗灰色~灰色シルトが断片的・不規則に挟まれる。また、角礫は縁辺沿い幅2~4mmが暗褐色化したものが点在する。	516
517					V																			516. 50~516. 80mは安山岩 (均質) の角礫だが、境界は不明瞭。	517
518					V																				518
519					V																				519
520					V																				520

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0. 5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0. 5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の33) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2		
641				▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰	Bb																	640. 10~642. 95mは角礫化がやや進んでいるが、割れ目は少ない。 641. 20~641. 60mは70°の割れ目に沿って岩片状となる。面は暗褐色化しているが、付着物はほとんどない。	641
642				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																	下層との境界は漸移的に密着している。 643. 80~645. 50m: 安山岩 (均質)。中粒輝石安山岩。金属音を発する。20~60°の割れ目が発達し、短柱状~岩片状コア主体となる。面は黒褐色化しており、一部に白色鉱物が付着する。644. 80~645. 30mは30~60°の割れ目が交差し岩片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。	642
643				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																	下層との境界は漸移的に密着している。 645. 50~660. 90m: 安山岩 (角礫質)。角礫化のやや進んだ細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色・緻密で境界は明瞭。所々に幅5~20cmの角礫化がより進んだ部分を挟む。全般的に亜金属音であるが、大きな角礫の中には金属音を発するものがある。	643
644		-608. 58	643. 80	▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																	646. 55mに55°の割れ目があり、周辺は細片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物はわずかである。 647. 25~647. 55mは40~60°の割れ目が交差し、岩片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。	644
645		-610. 28	645. 50	▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																	649. 70mに65°の割れ目があり、周辺は岩片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。 649. 95mに60°の割れ目があり、褐色シルトが少量付着する。面は黒褐色化し、不明瞭な条線が認められる。周辺は岩片状となる。 650. 00~656. 30mは割れ目が少なく、柱状~長柱状コアが連続する。	645
646				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																	651. 60mに60°の割れ目があり、岩片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物は少ない。 652. 20~653. 70mは角礫間を充填する白色鉱物が点在する。	646
647				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																	656. 30~656. 90mは80°の割れ目により、岩片状となる。面は部分的に黒褐色化し、褐色シルトが少量付着する。部分的に条線が認められる。 656. 90~657. 90mは60~80°と30~50°の割れ目が交差し、岩片状~細片状コア主体となる。 657. 90~658. 50mは角礫化がごく弱く均質に近い。概ね金属音を発するが、割れ目も発達する。 658. 60~658. 90mは70°の割れ目により、細片状となる。面は部分的に黒褐色化し、褐色シルトが少量付着する。	647
648				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																	659. 70~660. 30mは角礫化が進み1~3cmの角礫が卓越する。	648
649				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		649
650				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		650
651				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		651
652				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		652
653				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		653
654				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		654
655				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		655
656		-620. 78	656. 00	▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		656
657				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		657
658				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		658
659				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		659
660				▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		660

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の35) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)	
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2	1			
681		-645.08	680.30	V	安山岩 (均質)	暗灰	Ba																			680.30~681.75m: 安山岩 (角礫質)。角礫化のごく弱い中粒輝石安山岩で、角礫は暗色・緻密で、全般に金金属音を発する。 681.45mに60°の割れ目があり、岩片状となるが、面は新鮮。	681
682		-646.53	681.75	V	安山岩 (角礫質)	暗灰 オリブ褐	Bb																			下層との境界は漸移的で密着している。 681.75~755.80m: 安山岩 (均質)。中粒の輝石安山岩で、全般に金属音を発する。割れ目は30~50°のものが卓越するが、所々に60~85°のものがある。面は概ね黒褐色化しているが付着物はほとんどない。 682.00mに65°の割れ目があり、面はオリブ褐色~赤褐色を呈する。付着物はないが、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。 682.15~682.95mは50~65°の潜在割れ目が認められる。 683.10mは55°の割れ目が交差し、岩片状となる。面はいずれも黒褐色化し、暗褐色シルトが少量付着する。	682
683				V																						684.60mに50°の割れ目があり、周辺は岩片状となる。面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。 685.15mに65°の割れ目があり、周辺は岩片状となる。面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。	683
684				V																						686.40mに55°の割れ目があり、面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。	684
685				V																						687.90mに50°の割れ目があり、面は黒褐色化し幅1mmの暗褐色シルトを挟む。	685
686				V																						689.55mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化し白色軟質鉱物が少量付着する。	686
687				V																						690.15mに85°のわん曲した割れ目があり、面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。 690.50mに45°の割れ目があり、面は黒褐色化しているが付着物はない。	687
688				V																						691.00~698.00mはφ1~4cmの黒色細粒安山岩捕獲岩片が少量点在する。 691.20~693.00mは30~60°の潜在割れ目が認められる。	688
689				V	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			692.10mに65°の割れ目があり、面は黒褐色化し幅1mm未満の褐色シルトと白色軟質鉱物が付着する。	689
690				V																						693.00mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化し暗灰色シルトが少量付着する。	690
691				V																						693.60~694.20mは50~70°の割れ目が交差し岩片状コアとなる。面は黒褐色化しているが付着物はほとんどない。	691
692				V																						695.30mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。	692
693				V																						696.45mに55°の平行割れ目があり、面は黒褐色化し黒色~褐色シルトが少量付着する。	693
694				V																						697.85mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。	694
695				V																						698.55~698.90mは網目状の潜在割れ目が認められる。	695
696				V																						699.65mに65°の割れ目があり、面は黒褐色化し、付着物はほとんどないが、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。	696
697				V																							697
698				V																							698
699				V																							699
700				V																							700

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の39) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	地質 名	色調	岩級 区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2		
761				△△△																				761	
762				△△△																				762	
763				△△△																				763	
764				△△△		暗褐																	763. 30~763. 60mは細粒の安山岩（均質）角礫。	764	
765				△△△																			764. 50mに55°の割れ目があり、面は部分的に暗緑色化し白色鉱物が少量付着する。	765	
766				△△△																			765. 90~766. 70mは約30°の平行割れ目が発達する。	766	
767				△△△																				767	
768				△△△	凝灰角礫岩	暗青灰	Bb																	768	
769				△△△																				769	
770				△△△																				770	
771				△△△																			771. 00~774. 85mは様々な色調の安山岩角礫に黄灰色デイサイト角礫が混じる。	771	
772				△△△		黄褐																		772	
773				△△△																				773	
774				△△△																				774	
775				△△△																			774. 90~775. 35mは20°の暗褐色細粒凝灰岩の葉理が認められる。	775	
776				△△△																				776	
777				△△△																				777	
778				△△△																				778	
779				△△△																			778. 50~779. 65mは角礫が少なく、約30°の暗褐色細粒凝灰岩の葉理が認められる。 779. 90mに45°の割れ目があり、面は概ね新鮮で約60°の条線が認められるが付着物はない。 780. 25mに50°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、高角度の条線が認められる。付着物はほとんどないが面に沿ってフィルム状に剥離しやすい。	779	
780				△△△																				780	

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷つかない（金属音）。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷つかない（金属音）。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状

- I : 長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- II : 柱状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- III : 短柱状（全周を有し10cm未満）
- IV : 岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- V : 細片状（長さ4cm未満の岩片）
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の40) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	地質 名	色調	岩級 区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)		
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱	長柱	砂片	柱			柱	状
781				△△△																					781			
782				△△△																					782			
783				△△△																					783			
784				△△△																					784			
785				△△△																					785			
786				△△△		暗褐																			786			
787				△△△		〃																		786.45mに60°の割れ目があり、面は暗赤褐色化して高角度の条線が認められるが、付着物はない。	787			
788				△△△																					788			
789				△△△																					789			
790				△△△	凝灰角礫岩	暗青灰	Bb																		790			
791				△△△																					791			
792				△△△		〃																			792			
793				△△△																					793			
794				△△△		黄褐																			794			
795				△△△																					795			
796				△△△																					796			
797				△△△																					797			
798				△△△																				797.50mに60°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、ほぼ水平の不明瞭な条線が認められるが、付着物はない。	798			
799				△△△																				798.55mに60°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、高角度の条線が認められる。付着物はほとんどないが面に沿ってフィルム状に剥離し弱い。	799			
800				△△△																				799.45mに65°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、高角度の条線が認められるが、付着物はほとんどない。	800			

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の44)		G L = 35. 22m		L = 1253. 0m																						
標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断断面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩短柱状	砂片状柱状	柱状	柱状	柱状		
861				△△△		暗褐																		861. 20~861. 50mは暗赤褐色化した細粒輝石安山岩の角礫。	861	
862				△△△		〃																			862	
863				△△△		〃																			863	
864				△△△	凝灰角礫岩	暗青灰																			864	
865				△△△		〃																			865	
866				△△△		黄褐																		865. 35~865. 65mは暗赤褐色化した細粒輝石安山岩の角礫。	866	
867				△△△		〃																			867	
868		-832. 58	867. 80	▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																		867. 80~869. 75m : 安山岩 (角礫質)。 角礫化のごく弱い細粒輝石安山岩。 40~50° の割れ目が卓越するが面は概ね新鮮。	868	
869		-834. 53	869. 75	▽▽▽		褐灰	Bb																		869	
870				△△△		暗褐																		869. 75~926. 75m : 凝灰角礫岩。 869. 75~874. 75mは暗褐色のシルト~細粒砂サイズ基質中に φ0. 5~2cm、最大約6cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。 割れ目は少なく、面は概ね新鮮。	870	
871				△△△		〃																			871	
872				△△△		〃																			872	
873				△△△		暗青灰																			873	
874				△△△	凝灰角礫岩	〃																		873. 80~873. 95mは暗赤色化した細粒輝石安山岩の角礫。	874	
875				△△△		暗赤褐																		874. 75~875. 30mはφ2~5cmの角礫が密集する。 875. 20mにはほぼ水平な割れ目があり、幅3~4mmの剥離性のある 黒色泥岩を挟む。	875	
876				△△△		〃																			876	
877		-841. 48	876. 70	△△△		暗褐																		876. 70~880. 70mは礫径・礫量ともに減少する。	877	
878				△△△		〃																			878	
879				△△△		〃																			879	
880				△△△		オリブ灰																			880	

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断断面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0. 5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0. 5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6(63の45) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ											※コアの形状					※断断面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱状	砂片状	柱状	5	4	3	2	1		
881		-845.48	880.70	△△△		暗褐 〜 オリブ灰	Bb																				880.70~890.75mはオリブ灰色の細粒砂~中粒砂サイズ基質中にφ0.5~2cm、最大約8cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。また、少数ではあるが暗灰色泥岩角礫を含む。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。	881		
882				△△△																								882		
883				△△△																							883.05~883.20mは灰色多孔質な中粒輝石安山岩の角礫。	883		
884				△△△																							883.85~889.40mは所々にほぼ水平な幅2~4mmの暗灰色細粒凝灰岩の葉理を挟む。	884		
885				△△△		オリブ灰																						885		
886				△△△		〜																						886		
887				△△△		暗灰																						887		
888				△△△		〜																						888		
889				△△△		暗青灰																						889		
890				△△△		凝灰角礫岩	Bb																					890		
891		-855.53	890.75	△△△		暗褐 〜 黄褐																					890.75~891.70mは礫をほとんど含まない。	891		
892		-856.48	891.70	△△△		暗褐																					891.70~901.65mは暗褐色の細粒砂~中粒砂サイズ基質中にφ0.5~2cm、最大約9cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。	892		
893				△△△																							892.60~892.90mは暗紫灰色の粗粒輝石安山岩の角礫。	893		
894				△△△		〜																					893.65~896.20mは礫の量が少ない。	894		
895				△△△																								895		
896				△△△		暗青灰																						896		
897				△△△		〜																						897		
898				△△△																								898		
899				△△△		暗赤褐																						899		
900				△△△																								900		

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断断面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の46) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)	
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2	1			
901				△△△		暗褐 暗青灰 暗赤褐																					901
902		-866.43	901.65	△△△																						901.65~916.75mは褐色の細粒砂~中粒砂サイズ基質中にφ1~3cm、最大約17cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。割れ目は30°以下が卓越し、面は概ね新鮮。	902
903				△△△																							903
904				△△△																							904
905				△△△		褐																				904.55mに20°の割れ目があり、面は赤褐色化して高角度の条線が認められるが、付着物はほとんどない。下盤側に幅1~3mmの暗赤褐色の細粒凝灰岩を伴い、上盤側幅約6cmは細片状となる。	905
906				△△△																							906
907				△△△																							907
908				△△△																						907.70~908.10mは礫量が少なく、所々に5°で幅約1cmの褐色細粒凝灰岩を挟む。	908
909				△△△		青灰																				909.10~909.95mはφ2~5cmの青灰色~赤灰色の中粒輝石安山岩の角礫が密集する。	909
910				△△△	凝灰角礫岩		Bb																			910.05~910.30mは赤灰色の中粒輝石安山岩の角礫。	910
911				△△△																							911
912				△△△																							912
913				△△△		赤灰																					913
914				△△△																							914
915				△△△																							915
916				△△△																							916
917		-881.53	916.75	△△△		暗赤褐 青黒 赤灰																				916.75~926.75mはやや赤色化した細粒砂~中粒砂サイズ基質中にφ1~5cm、最大約8cmの様々な色調の安山岩角礫を含み、青黒色の中粒輝石安山岩が卓越する。割れ目は30°以下が卓越し、面は概ね新鮮。	917
918				△△△																							918
919				△△△																							919
920				△△△																							920

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の48) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)					
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2			1				
941		-906.08	941.30	△△△		暗赤褐 暗灰																					940. 15~940. 35mは緑灰色の細粒凝灰岩を挟み、細片化している。	941		
942				△△△		暗褐 暗灰																						942. 90mに45° の割れ目があり、面は暗緑色化して不明瞭ながら高角度の条線が認められ、暗緑色シルトが少量付着する。	942	
943		-908.08	943.30	△△△		暗灰																					943. 25mに70° の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、低角度の条線が認められ、暗緑色シルトが少量付着する。	943		
944				△△△																							943. 30~954. 85mは褐色の細粒砂サイズ基質中にφ1~4cm、最大約19cmの様々な色調の安山岩角礫を含み、青灰色の細粒輝石安山岩が卓越する。	944		
945				△△△		褐																					944. 45~944. 55mに10° の暗黄褐色中粒凝灰岩を挟む。	945		
946				△△△																									946. 80mに50° の割れ目があり、面は暗緑色化して暗緑褐色シルトが少量付着する。	946
947				△△△																								947. 55mに60° の割れ目があり、面は暗緑色化して暗緑褐色シルトが少量付着する。	947	
948				△△△																										
949				△△△		青灰																						949. 15~949. 85mは30~50° の割れ目が発達し、面は概ね暗緑色化している。	949	
950				△△△	凝灰角礫岩		Bb																							
951				△△△																										
952				△△△																								951. 45mに60° の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、褐色シルトが少量付着する。	952	
953				△△△																										
954				△△△																										
955		-919.63	954.85	△△△																								954. 85~967. 30mは暗褐色の細粒砂サイズ基質中にφ0. 5~2cm、最大約6cmの暗灰色の安山岩角礫を含む。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。	955	
956				△△△		暗褐																						955. 25mに40° の割れ目があり、面は暗緑色化して高角度の条線が認められ、暗褐色シルトが少量付着する。	956	
957				△△△																										
958				△△△																										
959				△△△		暗灰																								
960				△△△																										

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0. 5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0. 5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の49) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)				
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2			1			
961				△△△	凝灰角礫岩	暗褐	Bb																						
962			△△△																										
963			△△△																										
964			△△△																										
965				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰	Ba																						
966			▽▽▽																										
967		-932.08	967.30	▽▽▽																									
968				▽▽▽																									
969				▽▽▽																									
970				▽▽▽																									
971				▽▽▽																									
972		-937.13	972.35	▽▽▽																									
973				▽▽▽																									
974				▽▽▽																									
975				▽▽▽																									
976				▽▽▽	安山岩 (均質)	青灰	Ba																						
977				▽▽▽																									
978				▽▽▽																									
979				▽▽▽																									
980				▽▽▽																									

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の53) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断断面の性状					記事	標尺 (m)		
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱状	長柱状	砂片	片柱			柱状	5
1041		-1005.13	1040.35	△△△△△	安山岩 (角礫質)	暗緑灰	Bb																			1040.35~1046.50m: 凝灰角礫岩。 1040.35~1044.40mは緑灰色のシルト~細粒砂サイズ基質中にφ0.5~2cm、最大約4cmの暗緑灰色細粒安山岩角礫を含む。礫径・礫量ともに下位に向けて減少し、所々に細粒凝灰岩の葉理が認められる。	1041	
1042				△△△△△	緑灰																						1042.20mに50°の割れ目があり、幅1~2mmの灰色細粒凝灰岩を挟み、高角度の葉理が認められる。	1042
1043				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰																						1043
1044		-1009.18	1044.40	△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰																						1044
1045				△△△△△	凝灰角礫岩	褐灰																					1044.40~1046.50mは褐灰色のシルト~細粒砂サイズ基質中にφ0.5~2cm、最大約7cmの様々な色調の安山岩、デイサイト、泥岩の角礫を含む。礫径・礫量ともに下位に向けて増加する。	1045
1046				△△△△△	凝灰角礫岩	緑灰																					1045.50~1046.50mは緑灰色のデイサイト角礫が密集する。	1046
1047		-1011.28	1046.50	△△△△△	凝灰角礫岩	青灰																					1046.50~1049.70m: 凝灰岩。 青黒色~暗赤褐色の細粒凝灰岩が卓越し、所々に様々な粒度・色調の凝灰岩を挟む。堆積時の擾乱を示す墨流し状構造が認められる。	1047
1048				△△△△△	凝灰岩	暗赤褐																					1046.50~1047.10mは細片化している。	1048
1049				△△△△△	凝灰岩	暗緑灰																						1049
1050		-1014.48	1049.70	△△△△△	凝灰岩	暗緑灰																					1049.70~1053.40m: デイサイト (角礫質)。 角礫化がやや進んだ無斑晶質デイサイトで、境界が明瞭な角礫が密集する。 割れ目は比較的少なく、面は概ね新鮮。	1050
1051				△△△△△	凝灰岩	黒褐																					1051	
1052				△△△△△	凝灰岩	黒褐																					1052	
1053				△△△△△	凝灰岩	緑灰																					1053	
1054		-1018.18	1053.40	△△△△△	凝灰岩	緑灰																				1053.40~1054.65m: 凝灰岩。 1053.40~1053.75mは粗粒凝灰岩~火山礫凝灰岩。 1053.75~1054.30mは細粒凝灰岩。いずれも水平~15°の葉理が認められる。	1054	
1055		-1019.08	1054.30	△△△△△	凝灰岩	暗赤褐																				1054.30~1054.65mは赤色化した細粒凝灰岩が主体で、堆積時の擾乱構造が認められる。	1055	
1056		-1019.43	1054.65	△△△△△	凝灰岩	暗赤褐																				1054.65~1055.65m: デイサイト (角礫質)。 角礫化がやや進んだ無斑晶質デイサイトで緑灰色~暗褐色の角礫が混じる。	1056	
1057		-1020.43	1055.65	△△△△△	凝灰岩	暗赤褐																				1055.65~1056.55m: 凝灰岩。 赤色化した細粒凝灰岩が主体で、10~20°の葉理や堆積時の擾乱構造が認められる。	1057	
1058		-1021.33	1056.55	△△△△△	凝灰岩	赤褐																				1056.55~1066.25m: デイサイト (角礫質)。 1056.55~1061.75mは角礫化の弱い無斑晶質デイサイト。 幅1mm以下の赤褐色鉱物を挟む割れ目や潜在割れ目が卓越し、面は概ね赤色化しているが付着物はほとんどない。	1058	
1059				△△△△△	凝灰岩	暗緑灰																					1059	
1060				△△△△△	凝灰岩	黒褐																					1060	

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフがつかささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断断面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の54) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2		
1061				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																	1061. 75~1066. 25mは角礫化のやや進んだ無斑晶質デイサイト。所々に幅3~4cmで30~45°の細粒凝灰岩を挟む。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。	1061
1062				△△△△△	凝灰角礫岩	黒褐	Bb																		1062
1063				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																		1063
1064				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																		1064
1065				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																		1065
1066				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																		1066
1067				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																	1066. 25~1073. 35m: 凝灰角礫岩。暗色のシルトサイズ基質中にφ1~3cm、最大約8cmの暗褐色~暗緑灰色無斑晶質デイサイト角礫を含む。所々に25~35°の稜理が認められる。1066. 25~1069. 75mは、割れ目は少ないが、面は暗緑色化し暗緑色~赤褐色軟質鉱物が少量付着する。	1067
1068				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																		1068
1069				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																		1069
1070				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																	1070. 40mに30°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、45°の稜理が認められ、暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	1070
1071				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																		1071
1072				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																	1071. 70mに60°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、30°の稜理が認められる。	1072
1073				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																	1073. 05~1073. 30mは30~45°の平行割れ目が発達し、岩片状となる。面は暗緑色化して光沢があり、様々な角度の稜理が認められ、暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	1073
1074				▽▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																	1073. 35~1077. 85m: 安山岩 (均質)。細粒輝石安山岩。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。	1074
1075				▽▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		1075
1076				▽▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		1076
1077				▽▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		1077
1078				△△△△△	凝灰角礫岩	黒褐	Bb																	1077. 85~1105. 85m: 凝灰角礫岩。1077. 85~1081. 35mは暗色のシルトサイズ基質中にφ1~3cm、最大約10mmの無斑晶質デイサイトや安山岩の角礫を含む。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。	1078
1079				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																	1078. 80mに50°の割れ目があり、面は暗緑色化して、幅1mmの暗緑色軟質鉱物と方解石が付着する。	1079
1080				△△△△△	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb																		1080

※硬さ

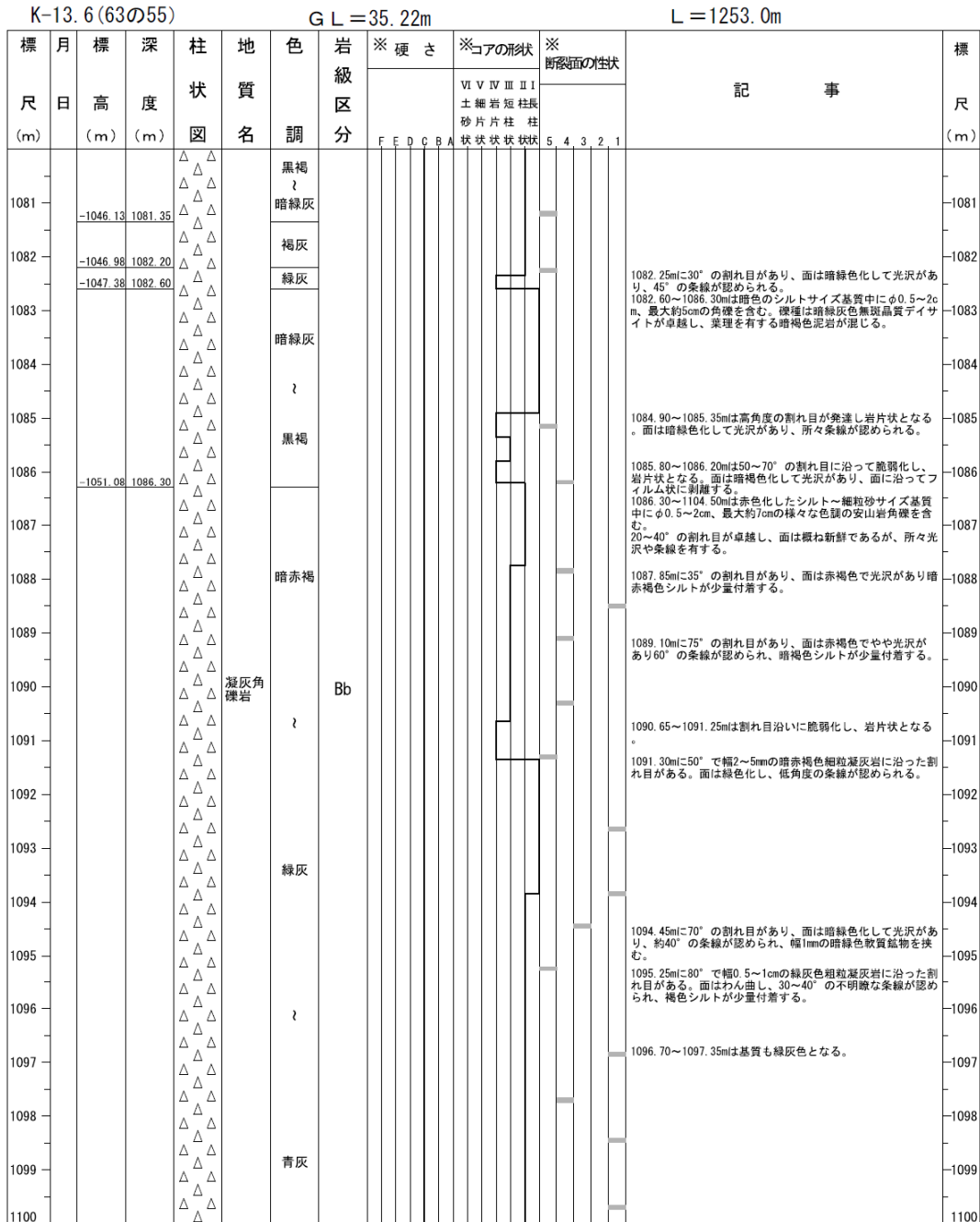
- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。



※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の57)		G L = 35.22m		L = 1253.0m																									
標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ										※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2	1					
1121		-1084.98	1120.20		頁岩	黒褐																				細片化しており、表面に光沢を有するものが多い。 1120.20~1121.85m: 砂岩。 細粒~中粒砂岩。所々に20~30°の葉理や堆積時の擾乱構造が認められる。割れ目は少なく、面は新鮮。	1121		
1122		-1086.63	1121.85		砂岩	灰白																				1121.55~1121.80mは極粗粒。 1121.85~1123.50m: 頁岩。 1121.85~1123.20mは岩片状で、割れ目は光沢を有するものが多い。所々に細粒砂岩を挟む。	1122		
1123		-1088.28	1123.50		頁岩	黒褐																				1123.50~1124.15m: 砂岩。 やや凝灰質な細粒砂岩。割れ目は概ね新鮮。	1123		
1124		-1088.93	1124.15		砂岩	緑灰																				1124.15~1125.30m: 頁岩。 全体的に細片化しており、表面に光沢を有するものが多い。	1124		
1125		-1090.08	1125.30		頁岩	黒褐																				1125.30~1126.25m: 安山岩 (均質)。 細粒輝石安山岩。割れ目は概ね暗緑色化している。	1125		
1126		-1091.03	1126.25		安山岩 (均質)	暗青灰																				1126.25~1127.60m: 硬岩。 粗粒砂岩中にφ0.5~2cmの角礫を含む。	1126		
1127		-1092.38	1127.60		礫岩																					1127.60~1131.55m: 砂岩。 粗粒~中粒砂岩。下位に向かって細粒化傾向。 所々に20~30°の葉理が認められる。割れ目は少なく、面は新鮮。 1128.40~1129.30mは所々に細礫が混じる。	1127		
1128					砂岩	灰白																				1130.75~1131.55mは所々に細礫が混じる。	1128		
1129					砂岩	灰白																					1129		
1130					砂岩	灰白																					1130		
1131					砂岩	灰白																					1131		
1132		-1096.33	1131.55		頁岩	暗赤褐																				1131.55~1133.85m: 頁岩。 20~40°の割れ目が発達し岩片状となる。割れ目は概ね新鮮。	1132		
1133					頁岩	暗赤褐																					1133		
1134		-1098.63	1133.85		砂岩	赤褐																				1133.85~1135.25m: 砂岩。 粗粒~中粒砂岩。約40°の葉理が認められる。割れ目は少ない。	1134		
1135		-1098.98	1134.20		砂岩	灰白																					1135		
1136		-1100.03	1135.25		頁岩	暗赤褐																				1135.25~1139.25m: 頁岩。 25~45°の割れ目が発達し、岩片状~細片状となる。割れ目は概ね新鮮。 1135.55mに35°の割れ目があり、面は光沢があり、幅約5cmが細片化している。細片の表面も光沢を有する。 1135.65~1136.25mはやや凝灰質。	1136		
1137					頁岩	暗赤褐																					1137		
1138					頁岩	暗赤褐																					1138		
1139		-1104.03	1139.25		砂岩	灰白																				1139.25~1141.75m: 砂岩。 1139.25~1139.45mはやや凝灰質な細粒砂岩。 1139.45~1139.65mは極粗粒砂岩。 1139.65~1140.00mは凝灰~凝灰質な粗粒砂岩。	1139		
1140		-1104.43	1139.65		砂岩	灰白																					1140		
1140		-1104.78	1140.00		砂岩	暗赤褐																					1140		

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の58) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断断面の性状					記事	標尺 (m)		
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2	1				
1141		-1105.48	1140.70	[砂岩]	砂岩	灰白																				1140.00~1140.70mは中粒~極粗粒砂岩。約20°の葉理が認められる。	1141	
		-1106.53	1141.75			暗赤褐 緑灰																						1140.70~1141.75mは細粒~極粗粒砂岩。凝灰質部と泥質部とが互層し、約30°の葉理が認められる。割れ目面は新鮮。
1142				[頁岩]	頁岩	暗赤褐																				1141.75~1142.75m: 頁岩。 割れ目が発達し岩片状だが、割れ目面は概ね新鮮。	1142	
		-1107.53	1142.75																									
1143				[砂岩]	砂岩	灰白																					1142.75~1143.35m: 砂岩。 中粒~極粗粒砂岩。	1143
		-1108.13	1143.35																									1143.35~1144.85m: 頁岩。 10~20°の割れ目が2~4cm間隔で発達するが、面は概ね新鮮。
1144				[頁岩]	頁岩	暗赤褐																						1144
		-1109.63	1144.85																									
1145				[砂岩]	砂岩	緑灰 暗褐																					1144.85~1149.15m: 砂岩。 1144.85~1145.70mは細粒~極粗粒砂岩。凝灰質部と泥質部とが互層し、20~30°の葉理が認められる。20~30°の割れ目が卓越し、面は概ね新鮮。	1145
		-1110.48	1145.70																									1145.70~1149.15mは中粒~粗粒砂岩。割れ目は少なく、面は新鮮。
1146				[砂岩]	砂岩	灰白																						1146
																												1147.90mに幅3cmで30°の泥岩を挟む。
1148				[頁岩]	頁岩	暗赤褐																						1148
		-1113.93	1149.15																									1149.15~1152.90m: 頁岩。 5~15°の割れ目が2~4cm間隔で発達するが、面は概ね新鮮。
1150				[頁岩]	頁岩	緑灰 暗褐																					1150.00~1150.55mはやや凝灰質で、約15°の葉理が認められる。	1150
		-1114.78	1150.00																									
1151				[頁岩]	頁岩	暗褐																						1151
		-1115.33	1150.55																									
1152				[砂岩]	砂岩	灰白																						1152
		-1117.68	1152.90																									1152.90~1154.50m: 砂岩。 細粒~中粒砂岩。下位に向かって粗粒化傾向。割れ目は少なく、面は新鮮。
1153				[頁岩]	頁岩	暗褐																						1153
		-1119.28	1154.50																									1154.50~1157.20m: 頁岩。 10~20°の割れ目が2~4cm間隔で発達するが、面は概ね新鮮。
1155				[砂岩]	砂岩	灰白																						1155
		-1121.98	1157.20																									1157.20~1158.65m: 砂岩。 細粒~中粒砂岩。下位に向かって粗粒化傾向。10~20°の泥質葉理が認められる。10~20°の割れ目が卓越し、面は新鮮。
1156				[頁岩]	頁岩	暗褐																						1156
		-1123.43	1158.65																									1158.65~1159.35m: 頁岩。 割れ目は少なく、面は新鮮。
1158				[砂岩]	砂岩	灰白																						1158
		-1124.13	1159.35																									1159.35~1160.00m: 砂岩。 細粒~中粒砂岩。
1159				[砂岩]	砂岩	灰白																						1159
		-1124.78	1160.00																									

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状(全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状(長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断断面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

